

【資料】

岡山県における感染症の患者発生状況について（2021年）  
Epidemiological Surveillance of Infectious Diseases in Okayama Prefecture (2021)

北村雅美, 木下浩行, 林 隆義, 望月 靖

KITAMURA Masami, KINOSHITA Hiroyuki, HAYASHI Takayoshi, MOCHIZUKI Yasushi

[キーワード：感染症, サーベイランス, 全数把握感染症, 定点把握感染症]

[Key words : Infectious disease, Epidemiological surveillance, Notifiable disease surveillance, Sentinel surveillance]

## 1 感染症発生動向調査

### 1.1 調査方法

感染症発生動向調査事業実施要綱（平成11年3月19日付け健医発第458号。以下「要綱」という。）に基づき、岡山県内の各関係機関から報告された患者情報は感染症サーベイランスシステム（NESID：National Epidemiological Surveillance of Infectious Disease）又は新型コロナウイルス感染症等情報把握・管理支援システム（HER-SYS：Health center Real-time Information-sharing System on COVID-19）により、国立感染症研究所感染症疫学センターへ報告され、都道府県の情報が集計されている。2021年に集計された全国の情報と比較しつつ、県内の発生状況を解析した。なお、新型コロナウイルス感染症の発生状況は別稿にまとめる。

### 1.2 届出対象感染症

対象となる感染症は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（平成10年法律第104号。以下「感染症法」という。）により定められており、一類～五類感染症、新型インフルエンザ等感染症に分類されている。一類～四類感染症及び新型インフルエンザ等感染症は全数把握対象に、五類感染症は、全数把握対象と定点把握対象に区分されている（表1）。2021年当初は新型コロナウイルス感染症は指定感染症であったが、2月13日に新型インフルエンザ等感染症に整理されたことから、現在指定感染症はない。

#### 1.2.1 全数把握感染症

全数把握感染症とは、発生数が希少、又は周囲への感染拡大防止を図るため、発生した全ての患者を把握することが必要な感染症で、医師は該当する患者を診断したときには、最寄りの保健所へ届出することが、感染症法上規定されている。

#### 1.2.2 定点把握感染症

定点把握感染症とは、発生動向の把握が必要な感染症

のうち、患者数が多数で、その全てを把握する必要がないもので、指定された医療機関（定点）から発生状況が週単位又は月単位で届出されることになっている。定点医療機関は、要綱の基準に基づき選定されており、岡山県の場合、小児科定点54、内科定点30、眼科定点12、性感染症定点17、基幹定点5が設定され、小児科定点と内科定点をあわせて、インフルエンザ定点84となっている。

定点把握感染症については、全国や過去のデータの比較においては、全ての定点医療機関から報告される患者数を定点医療機関数で割った値（以下「定点あたり報告数」という。）、又は年間の患者報告数を定点医療機関数で割った値（以下「定点あたり累積報告数」という。）を用いる。

### 1.3 調査期間

全数把握感染症（表1-1）及び月報告の定点把握感染症（表1-2-②）の調査期間は、2021年1月1日～12月31日、週報告の定点把握感染症（表1-2-①）については、2021年第1週～第52週（2021年1月4日～2022年1月2日）とした。なお、インフルエンザ及び感染性胃腸炎は、流行時期にあわせて、グラフ及び本文の内容を第36週～翌年第35週（2020年8月31日～2021年9月5日）とした。また、いずれの感染症も診断日を基準とした。なお、「感染原因・経路」については、「推定」も含むものとする。

## 2 結果

### 2.1 全数把握感染症の発生状況（表2, 3）

#### 2.1.1 一類感染症

一類感染症の届出はなかった。

#### 2.1.2 二類感染症

二類感染症は、結核の届出があった。急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコ

コロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。), 中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。), 鳥インフルエンザ (H5N1), 鳥インフルエンザ (H7N9) の届出はなかった。

i) 結核

結核は250例の届出があった。2019年までは300例以上の届出が続いていたが, 2020年は252例となり, 2021年は2020年とほぼ同数であった (図1)。病型は, 患者187例, 無症状病原体保有者59例, 疑似症患者2例, 死亡者2例であり, 届出のうち13例が医療・介護関係者 (医師, 看護師, 介護職など) であった。性別は男性133例, 女性117例で, 年齢階級別 (図2) では60歳以上の高齢者が72.0%を占めていた。また, 昨年と同様に, 20歳代の男性で届出が多く見られた (24例, 9.6%)。なお, 近年全国的に増加傾向にあった20歳代の若年層での新登録患者数は昨年と同様に多く (2020年は12,739例中1,027例 (8.1%), 2021年は11,519例中930例 (8.1%)), 引き続き, 同年代における外国生まれの患者の発生 (2020年, 2021年の新登録患者における割合はそれぞれ71.3%, 72.6%) が注目される<sup>1)</sup>。

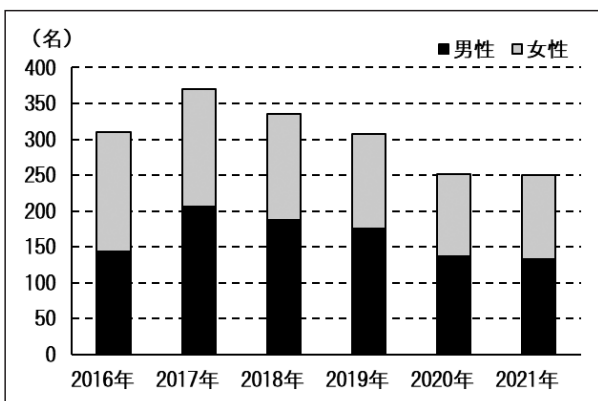


図1 結核 年次別発生状況

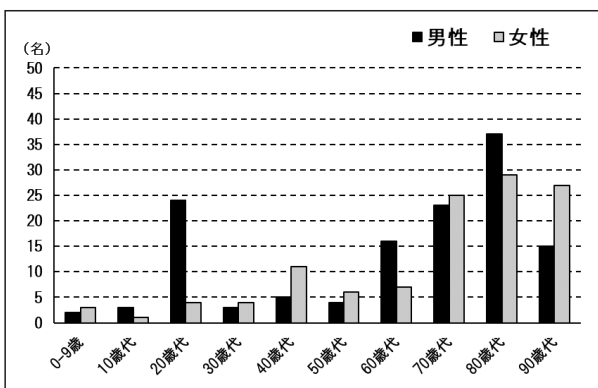


図2 結核 年齢階級別発生状況

2.1.3 三類感染症

三類感染症は, 腸管出血性大腸菌感染症の届出があった。コレラ, 細菌性赤痢, 腸チフス, パラチフスの届出はなかった。

i) 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は81例の届出があり, 過去5年と比較して, 2020年 (102例) に次いで2番目に多かった (図3)。病型は, 患者48例, 無症状病原体保有者33例であった。性別は男性46例, 女性35例で, 年齢階級別では, 20歳代 (19例), 0~9歳 (13例), 30歳代, 40歳代及び70歳代 (各11例ずつ) の順に多かった。月別発生状況は10月 (19例), 9月 (18例), 8月 (12例) の順

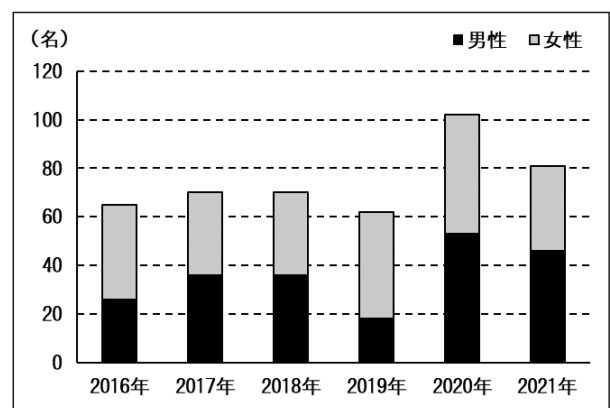


図3 腸管出血性大腸菌感染症 年次別発生状況

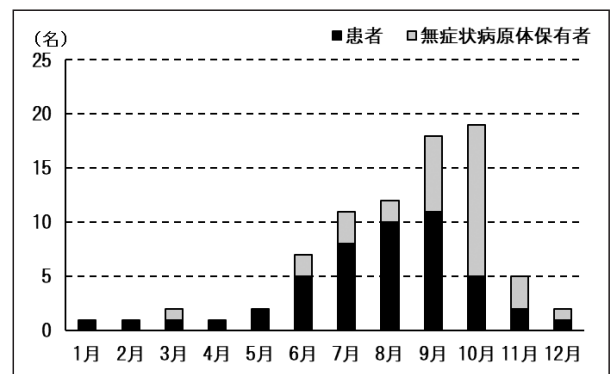


図4 腸管出血性大腸菌感染症 月別発生状況

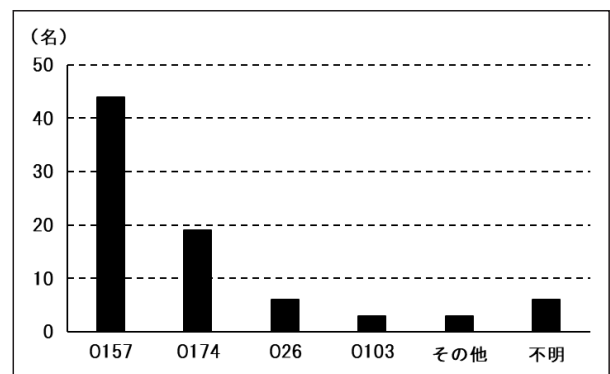


図5 腸管出血性大腸菌感染症 O血清群発生状況

に多くなっており、夏～秋にかけて届出が多かった（図4）。血清群別の内訳は、図5のとおりであり、9月に発生した7名（有症状2名、無症状5名）と、10月に発生した11名（全て無症状）は、同一施設でO174に感染していた。「その他」の内訳は、O111、O121及びO156が各1例ずつの3例であった。

感染原因は経口感染が31例、接触感染が7例、不明が43例であり、「焼肉の喫食」が11例あった。

#### 2.1.4 四類感染症

四類感染症は、E型肝炎、オウム病、重症熱性血小板減少症候群、つつが虫病、日本紅斑熱、レジオネラ症の届出があった。その他の届出はなかった。

##### i) E型肝炎

E型肝炎は2例の届出があり、50歳代の女性と、70歳代の男性各1例ずつであった。推定感染地域は国内（県内1例、県外1例）で、感染原因・経路は経口感染であり、豚レバー又はイノシシ肉を喫食していた。

##### ii) オウム病

オウム病は1例の届出があり、70歳代の女性であった。感染地域は、国内（県内）で、感染原因・経路は動物・蚊・昆虫等からの感染であり、自宅で飼育しているインコの*Chlamydophila psittaci*陽性が判明した。

##### iii) 重症熱性血小板減少症候群

重症熱性血小板減少症候群は6例の届出があり、感染症法で全数把握疾患となった。2013年以降で最多となった前年（7例）とほぼ同数であった（図6）。2013年からの累計報告数は23例となった。4～5月と、8～9月に届出があり、性別は男性4例、女性2例で、年齢階級別では80歳代が3例、50歳代、60歳代及び70歳代が各1例ずつであった。推定感染地域は全て国内（県内）で、感染原因・経路は、4例は動物・蚊・昆虫等からの感染が疑われ（刺し口ありが2例、動物からの感染が疑われ

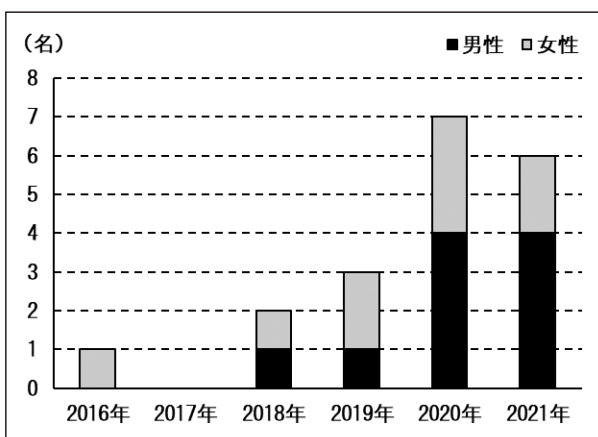


図6 重症熱性血小板減少症候群 年次別発生状況

る例が1例）、2例は不明であった。

##### iv) つつが虫病

つつが虫病は4例の届出があり、前年（3例）とほぼ同数であった。5月（2例）と10月及び11月（各1例ずつ）に届出があり、性別は男性2例、女性2例で、年齢階級別では80歳代が2例、70歳代及び90歳代が各1例ずつであった。推定感染地域は、全て国内（県内）で、感染原因・経路は、3例は動物・蚊・昆虫等からの感染が疑われ（全て刺し口あり）、1例は不明であった。

##### v) 日本紅斑熱

日本紅斑熱は9例の届出があり、2009年の県内初の届出以降で最多となった前年（11例）から減少した（図7）。2009年からの累計報告数は54例となった。10月（3例）、4月～7月、9月及び11月（各1例ずつ）に届け出があり（図8）、性別は男性4例、女性5例で、年齢階級別では70歳代が3例、60歳代及び80歳代が各2例ずつ、40歳代及び50歳代が各1例ずつであった。推定感染地域は、全て国内（県内）で、マダニの刺し口が5例で確認された。

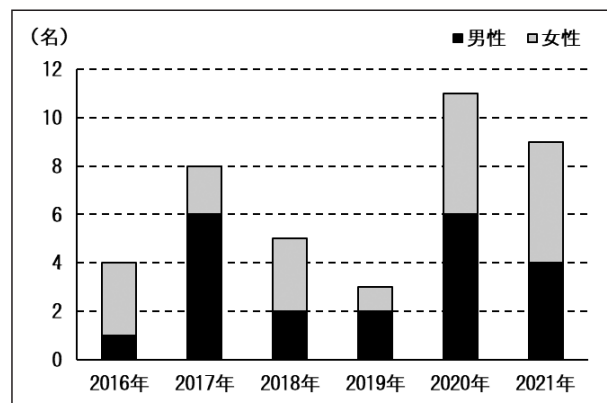


図7 日本紅斑熱 年次別発生状況

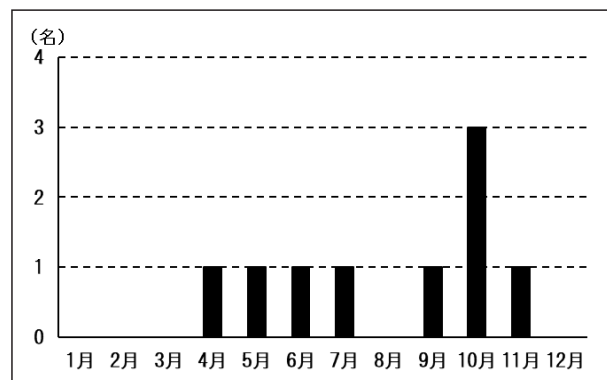


図8 日本紅斑熱 月別発生状況

##### vi) レジオネラ症

レジオネラ症は57例の届出があった（図9）。病型は

肺炎型が55例，ポンティアック熱型が1例，無症状病原体保有者が1例であった。性別は男性45例，女性12例で，年齢階級別では70歳代（18例），60歳代（17例），90歳代（8例）の順に多かった（図10）。感染原因・経路は，水系感染18例，塵埃感染6例，その他3例，不明31例であった（重複あり）。水系感染のうち，入浴施設の利用が5例で確認された。塵埃感染のうち，2例で草刈り等の野外活動の履歴が確認された。

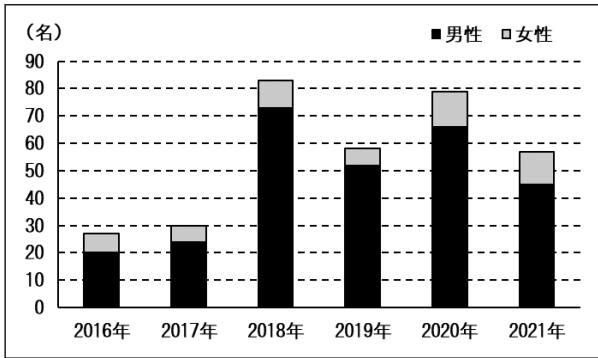


図9 レジオネラ症 年次別発生状況

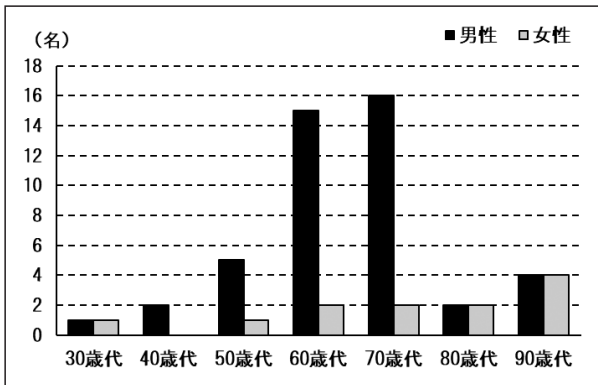


図10 レジオネラ症 年齢階級別発生状況

### 2.1.5 五類感染症（全数把握対象）

五類感染症では，15の感染症で届出があった。クリプトスポリジウム症，侵襲性インフルエンザ菌感染症，侵襲性髄膜炎菌感染症，先天性風しん症候群，バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症，バンコマイシン耐性腸球菌感染症，風しん，麻しん，薬剤耐性アシネトバクター感染症の届出はなかった。

#### i) アメーバ赤痢

アメーバ赤痢は14例の届出があり，前年（17例）から減少した（図11）。病型は腸管アメーバ症が12例，腸管外アメーバ症並びに腸管及び腸管外アメーバ症が各1例ずつであった。性別は男性12例，女性2例で，年齢階級別では50歳代及び60歳代（各4例ずつ），30歳代，40歳代及び70歳代（各2例ずつ）の順に多く，患者は全て30

歳以上の成人であった（図12）。推定感染地域は県内5例，都道府県不明1例，海外（タイ）1例，不明7例であった。感染原因・経路は性的接触3例，飲食物からの経口感染1例，その他（飼育動物からの感染可能性）が1例の他は不明であった。

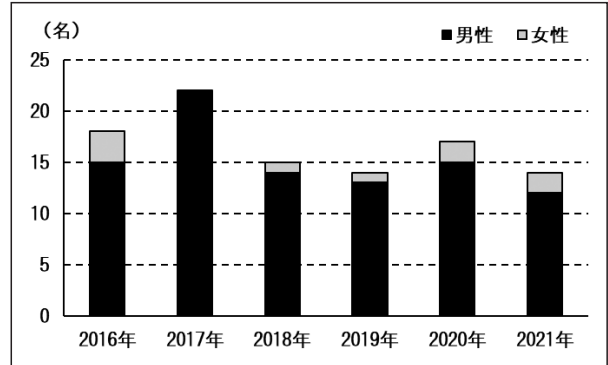


図11 アメーバ赤痢 年次別発生状況

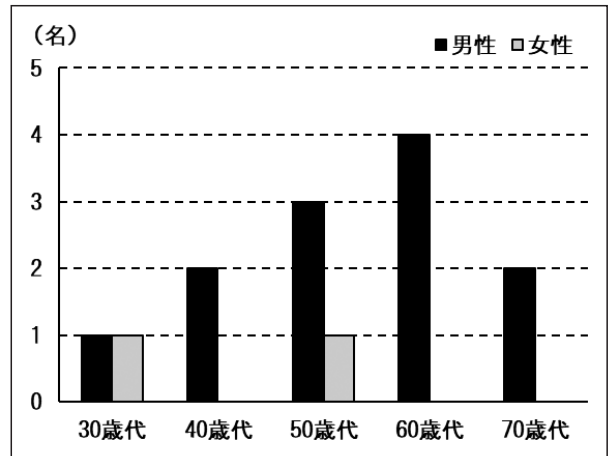


図12 アメーバ赤痢 年齢階級別発生状況

#### ii) ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）

ウイルス性肝炎は4例の届出があり，前年（10例）から減少した（図13）。性別は男性3例，女性1例であった。年齢階級別では20歳代（2例），30歳代及び70歳代（各1例ずつ）であった。病型は，B型が3例，その他が

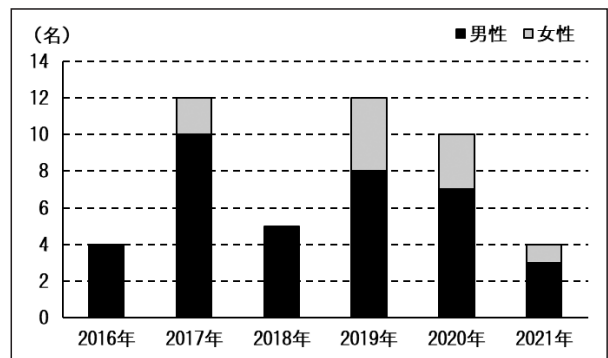


図13 ウイルス性肝炎 年次別発生状況

1例（EB（Epstein-Barr）ウイルス）であった。推定感染地域は全て国内（県内3例，都道府県不明1例）で，感染原因・経路は，性的接触（異性間）3例，不明1例であった。

iii) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は32例の届出があり，前年と同数であった（図14）。性別は男性18例，女性14例で，年齢階級別（図15）では70歳代（14例），60歳代及び80歳代（各5例ずつ）の順に多く，60歳以上で75.0%を占めていた。感染原因・経路は，以前からの保菌（12例，うち腸管・消化管（8例）が最多），医療器具関連感染（7例），手術部位感染（3例）の順に多かった。検出された菌種は，*Enterobacter cloacae*（11例，complex含む），*Klebsiella aerogenes*（5例），*Enterobacter aerogenes*（4例），*Klebsiella pneumoniae*（3例），*Escherichia coli*（2例），*Enterobacter cancerogenus*及び*providencia stuartii*（各1例ずつ）の順に多かった。

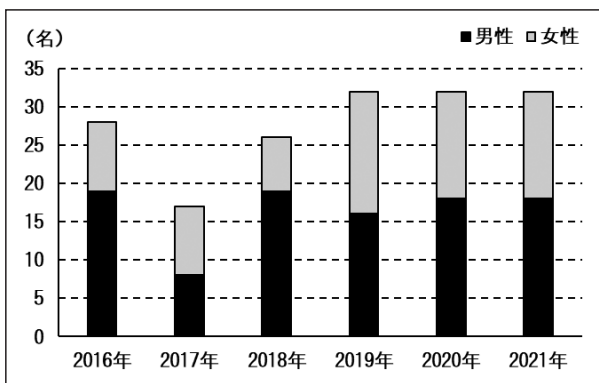


図14 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 年次別発生状況

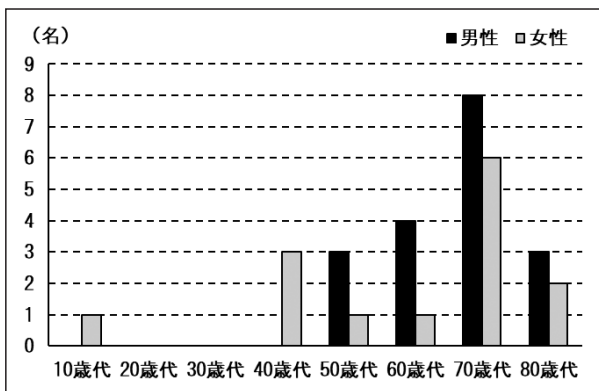


図15 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 年齢階級別発生状況

iv) 急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）

急性弛緩性麻痺は1例の届出があり，中学生の男性であった。病原体は不明であった。

v) 急性脳炎（ウエストナイル脳炎，西部ウマ脳炎，ダニ媒介脳炎，東部ウマ脳炎，日本脳炎，ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）

急性脳炎は8例の届出があり，前年（6例）から増加した（図16）。病原体の検出は，ヒトヘルペスウイルス6（4例），エンテロウイルス及び帯状疱疹ウイルス（各1例ずつ），病原体不明（2例）であった。性別は男性6例，女性2例で，年齢階級別では10歳未満（6例），10歳代及び50歳代（各1例ずつ）であった。

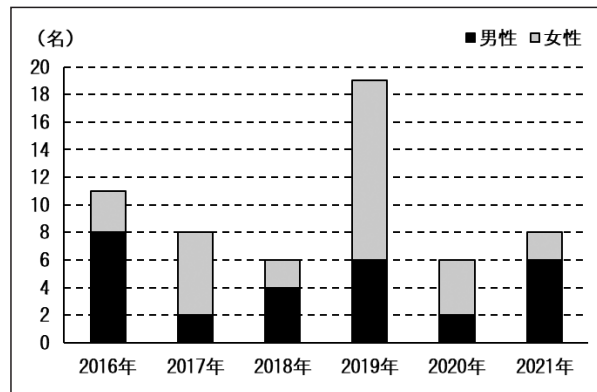


図16 急性脳炎 年次別発生状況

vi) クロイツフェルト・ヤコブ病

クロイツフェルト・ヤコブ病は4例の届出があった。性別は男性1例，女性3例で，年齢階級別では70歳代（2例），50歳代及び80歳代（各1例ずつ）の順であった。病型は，孤発性プリオン病（古典型）が3例，その他が1例であった。

vii) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は4例の届出があり，前年（6例）から減少した（図17）。性別は男性3例，女性1例で，年齢階級別では60歳代から90歳代で各1例ずつであった。感染原因・経路は，創傷感染1例，不明3例であった。

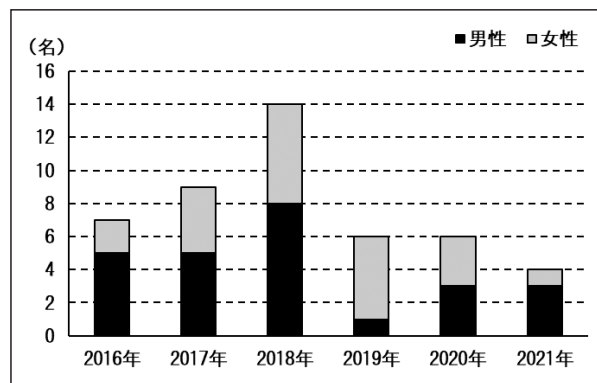


図17 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 年次別発生状況

viii) 後天性免疫不全症候群

後天性免疫不全症候群は13例の届出があり、前年（15例）から減少した（図18）。性別は全て男性で、年齢階級別では30歳代（8例）、40歳代（3例）、20歳代及び60歳代（各1例ずつ）の順に多かった（図19）。病型はAIDS 6例、無症候性キャリア7例であった。推定感染地域は、国内9例、国外（フィリピン）1例、不明3例であった。感染原因・経路は性的接触11例（異性間3例、同性間9例（重複あり））、不明3例であった。後天性免疫不全症候群の感染症法に基づく届出様式については、2018年1月1日から「診断時のCD4陽性Tリンパ球数（CD4値）」が記載項目として新たに追加された。CD4値は200/mm以下になるとカリニ肺炎等の日和見感染症を発症しやすくなる<sup>2)</sup>が、2021年の届出時点でCD4値が200/mm以下であった進行した症例が3例あり、これらは全てCD4値が50/mm以下の免疫能の極めて低下した状況で診断された症例であった。

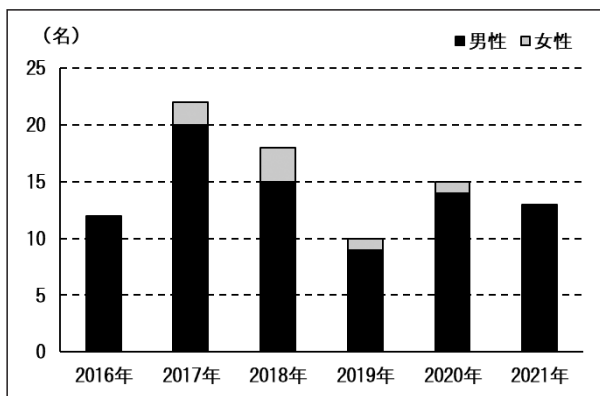


図18 後天性免疫不全症候群 年次別発生状況

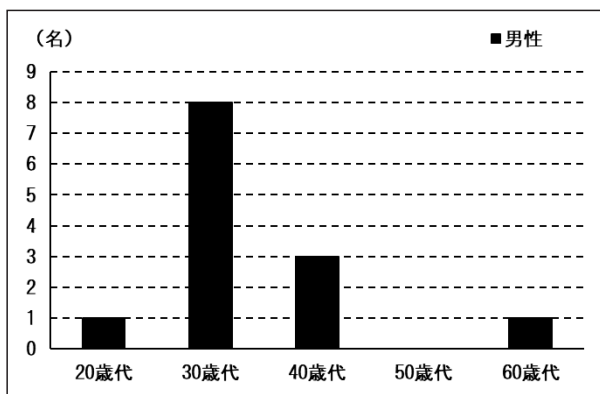


図19 後天性免疫不全症候群 年齢階級別発生状況

ix) ジアルジア症

ジアルジア症は1例の届出があった。70歳代の男性で、感染原因・経路は不明であった。

x) 侵襲性肺炎球菌感染症

侵襲性肺炎球菌感染症は17例の届出があり、前年（11例）から増加した（図20）。性別は男性12例、女性5例で、年齢階級別では、0～9歳、60歳代及び70歳代（各5例ずつ）、80歳代及び90歳代（各1例ずつ）の順に多かった（図21）。ワクチン接種歴別でみると接種歴あり7例及び接種歴なし7例、不明3例であった。

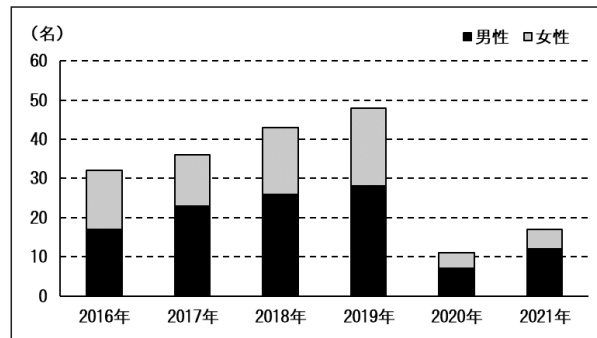


図20 侵襲性肺炎球菌感染症 年次別発生状況

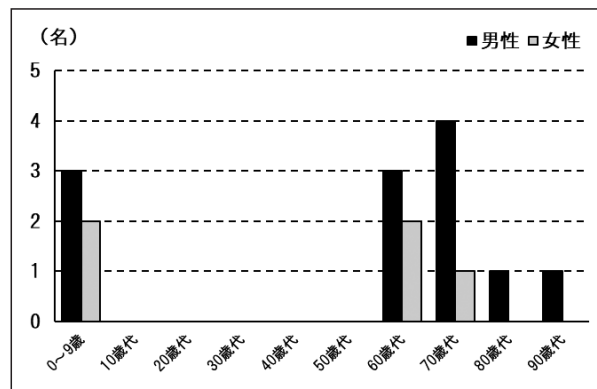


図21 侵襲性肺炎球菌感染症 年齢階級別発生状況

xi) 水痘（入院例に限る。）

水痘（入院例に限る。）は9例の届出があり、前年（5例）から増加した。性別は男性3例、女性6例で、年齢階級別では30歳代（4例）、20歳代及び40歳代（各2例ずつ）、70歳代（1例）の順に多かった。感染原因・経路は、水痘患者との接触1例、院内感染3例、不明5例であった。

xii) 梅毒

梅毒は160例の届出があった。過去5年間と比較すると、感染症法が施行された1999年以降で最多の届出数となった2019年（191例）からは減少したが、毎年150例を超える届出数が継続している（図22）。病型は早期顕症梅毒Ⅰ期78例、早期顕症梅毒Ⅱ期46例、晚期顕症梅毒2例、無症状病原体保有者34例であった。性別は男性101例、女性59例で、年齢階級別では、男性は30

歳代及び40歳代（各28例ずつ）、20歳代（18例）の順、女性は20歳代（35例）、30歳代（8例）、10歳代及び40歳代（各5例ずつ）の順に多かった（図23）。特に女性は10歳代及び20歳代で女性全体の67.8%を占めていた。10歳代及び20歳代の女性の届出数は、年々増加傾向を示している（図24）。推定感染地域は国内145例（県内116例、県外22例、都道府県不明7例）、国外2例、不明15例であった（重複あり）。感染原因・経路は、性的接触151例（異性間132例、同性間11例、詳細不明8例（重複あり））、不明11例であった。

なお、梅毒の感染症法に基づく届出様式については、2018年1月1日から「性風俗産業の従事歴・利用歴の有無（直近6か月以内）」、「HIV感染症合併の有無」、「過去の治療歴の有無」、「妊娠の有無」が記載項目として新たに追加された。「性風俗産業の従事歴・利用歴の有無」については、2021年は、男性感染者（101例）のうち54例（53.0%）が直近6か月以内の性風俗産業の利用歴があり、年齢階級別では、30歳代及び40歳代（各16例ずつ）の利用が最も多く、次いで50歳代（11例）、60歳代（6例）の順で多かった（図25）。また、女性感染者（59例）のうち25例（42.4%）が直近6か月以内の性風俗産業の従事歴があり、年齢階級別では、20歳代（19例、76.0%）が最も多かった（図26）。2020年と比較すると、女性の感染者数はほぼ同数であるが、性風俗産業従事歴の割合は増加している（2020年は27.6%）。「HIV感染症合併の有無」については、2021年は、男性感染者のうち3例がHIV感染症合併があり、3例とも30歳代であった。女性感染者では、HIV感染症の合併はなかった。「過去の治療歴の有無」については、男性が2例（30歳代及び40歳代が各1例ずつ、2例とも1年以上前）、女性が4例（20歳代が2例、30歳代及び50歳代が各1例ずつ、1年以内と1年以上前が各1例ずつ、2例は不明）で治療歴があった。「妊娠の有無」については、2021年は5例

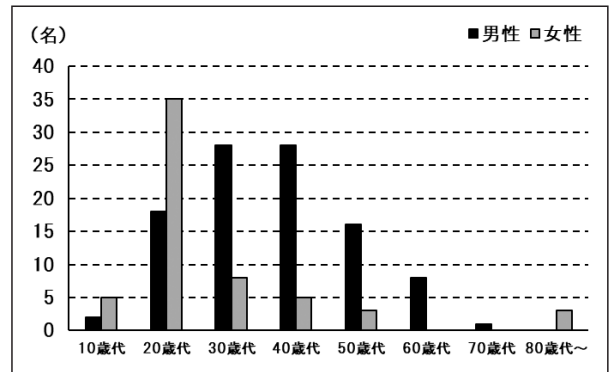


図23 梅毒 年齢階級別発生状況

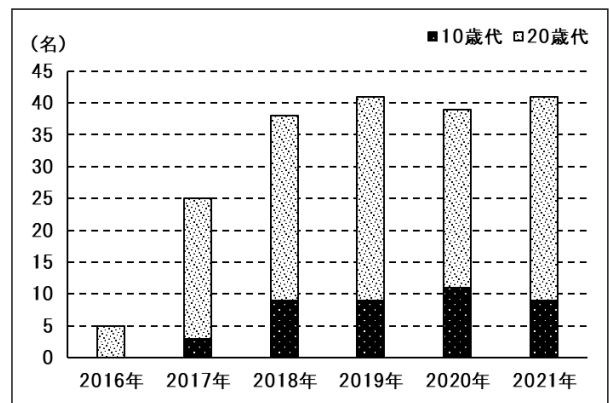


図24 梅毒 年次別（10歳代及び20歳代女性）

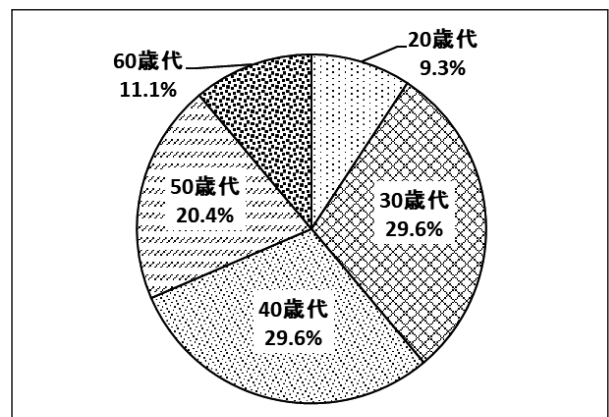


図25 梅毒 性風俗産業利用歴有（2021年、男性）

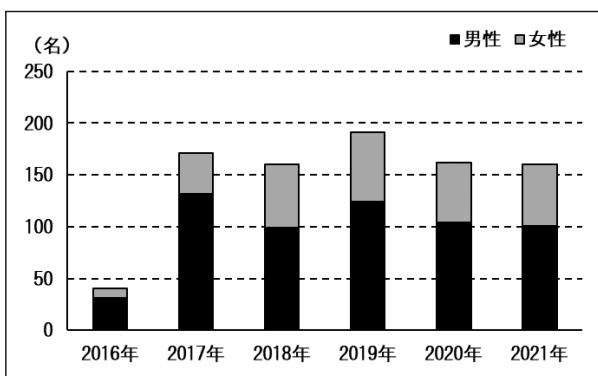


図22 梅毒 年次別発生状況

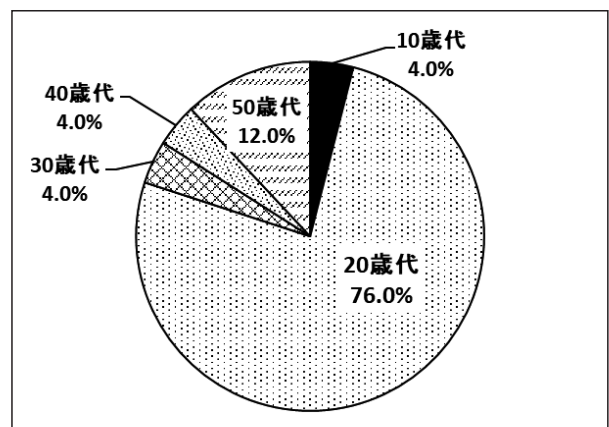


図26 梅毒 性風俗産業従事歴有（2021年、女性）

で妊娠が確認され、妊娠8週から16週で感染が判明していた。年齢階級は10歳代及び20歳代であった。妊娠が確認されたもののうち性風俗産業従事歴は、3例が無、2例が不明であった。

xiii) 播種性クリプトコックス症

播種性クリプトコックス症は1例の届出があった。70歳代の女性で、感染原因・経路は免疫不全であり、感染地域は国内（県内）であった。

xiv) 破傷風

破傷風は、1例の届出があった。60歳代の女性で、感染原因・経路は明らかな創部がなく、不明であった。

xv) 百日咳

百日咳は、15例の届出があり、前年（92例）より大幅に減少した。2018年（187例）、2019年（428例）と増加傾向であったが、以降減少し最少となった。性別は男性7例、女性8例で、月別の発生状況に明確な差は見られなかった。

2.2 定点把握感染症（五類感染症）の届出状況

2.2.1 小児科・内科定点における週報告の感染症（表4、5）

小児科・内科定点における週報告の感染症のうち、主な感染症については、以下のとおりである。

i) インフルエンザ（2020/21年シーズン流行のまとめ）（図27）

2020/21年シーズン（2020/8/31～2021/9/5）、岡山県の患者報告数は、83人であった。これは過去5シーズンと比較して最も少なかった。2020年第40週（9/28～10/4）にシーズン初めての患者が報告されてから、散発的に患者が発生した。最も報告患者数が多かったのは、2021年第4週（1/25～1/31）の9人（定点あたり0.11人）であった。2020/21年シーズンは、注意報発令基準である定点あたり1.00人を上回ることがなく、岡山県でインフルエンザ注意報の制度が開始された2005/06年シーズン以降で、初めて注意報が発令されなかった。全国でも同様に、シーズンを通して定点あたり1.00人を上回ることなく、2021年第5週（2/1～2/7）の98人（定点あたり0.02人）が、今シーズンの最多の報告数となった。岡山県の年齢階級別では80歳以上が16.9%と最も高かった。

2020/21年シーズンに岡山県環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスはなかった。全国で2020/21年シーズンに検出されたインフルエンザウイルスは8株であり、AH3亜型4株、次いでAH1pdm09型2株、A亜型及びC型各1株ずつであった。

ii) RSウイルス感染症（図28）

RSウイルス感染症は、定点あたり累積報告数が39.44

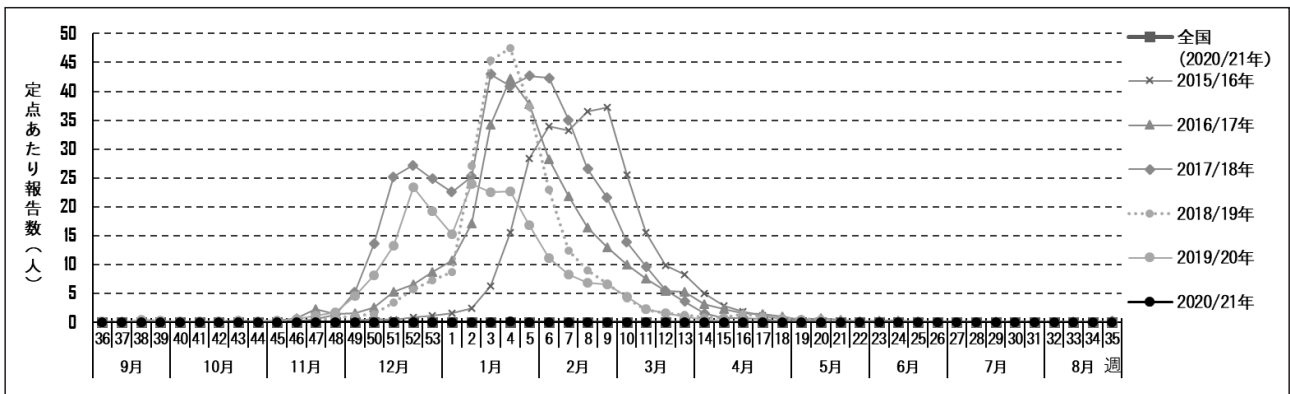


図27 インフルエンザ 発生状況

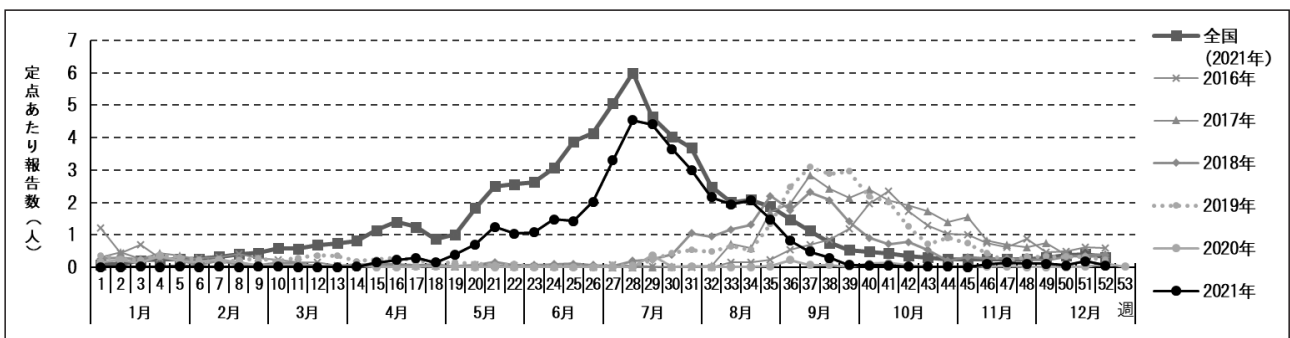


図28 RSウイルス感染症 発生状況



人であり、前年（3.34人）から大幅に増加した。新型コロナウイルス感染症流行前は、例年流行のピークは9月中旬（第37週）に見られていたが、2021年は7月（第28週）に流行のピークが見られた。年齢階級別では1歳未満の占める割合が減少し、2歳、3歳及び4歳以上のそれぞれの割合が増加した（図29）。これらの例年より早いピークの出現と、2021年における報告数の増加、年齢階級別割合での1歳未満の占める割合の減少については、全国の場合と同様であった<sup>3)</sup>。

iii) 咽頭結膜熱（図30）

咽頭結膜熱は、定点あたり累積報告数が7.11人であり、前年（12.24人）から減少した。年間を通して全国とほぼ同様に推移した。年齢階級別では6歳以下の乳幼児の割合が全体の93.2%を占めた。

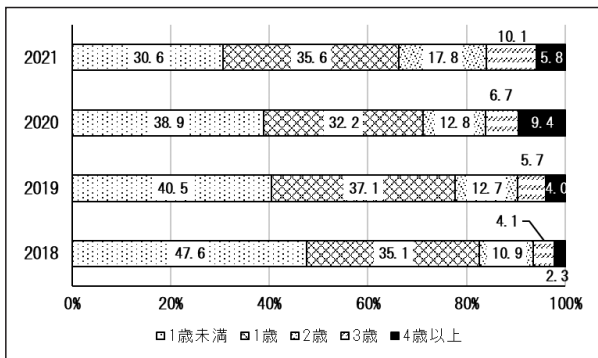


図29 RSウイルス感染症 年齢階級別割合の推移

iv) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（図31）

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、定点あたり累積報告数が13.17人であり、前年（29.69人）から減少した。全国と同様、年間を通して低いレベルで推移した。年齢階級別では、6歳以下の乳幼児の割合が全体の62.6%を占めた。

v) 感染性胃腸炎（図32）

感染性胃腸炎は、2021年4月にピークがあったが（第17週、9.17人）、その他はほぼ横ばいで推移した。全国と比較すると、シーズンを通してピーク時以外はほぼ同様に推移した。年齢階級別では、6歳以下の乳幼児の割合が全体の55.5%を占めた。

vi) 水痘（図33）

水痘は、定点あたり累積報告数が4.85人であり、前年（7.74人）から減少した。過去5年間と比較すると、最も少なかった。年間を通して全国とほぼ同様に推移した。年齢階級別では6歳以下の乳幼児の割合が全体の62.6%を占めた。

vii) 手足口病（図34）

手足口病は、定点あたり累積報告数が38.94人であり、前年（8.04人）から大幅に増加した。新型コロナウイルス感染症流行前は、例年流行のピークは夏季（6月～7月）に見られていたが、2021年は10月に流行のピークが見られた（第44週、3.94人）。年間を通して、全国とほ

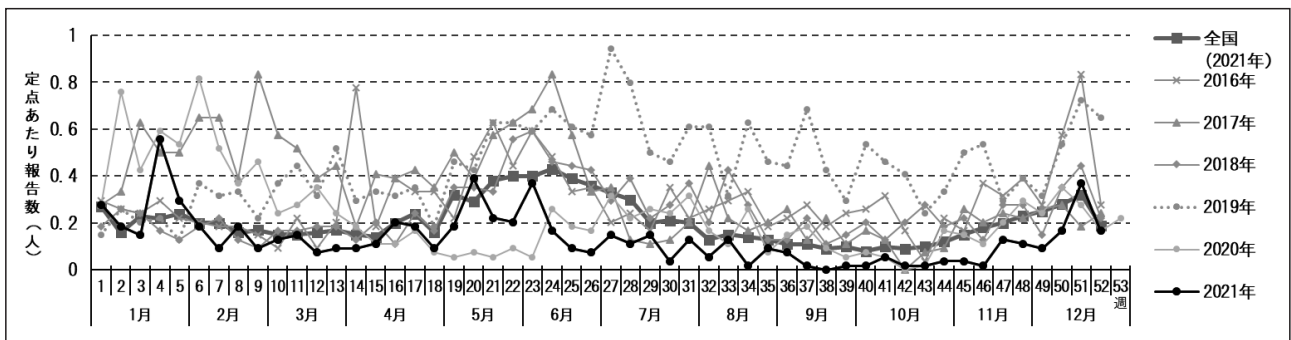


図30 咽頭結膜熱 発生状況

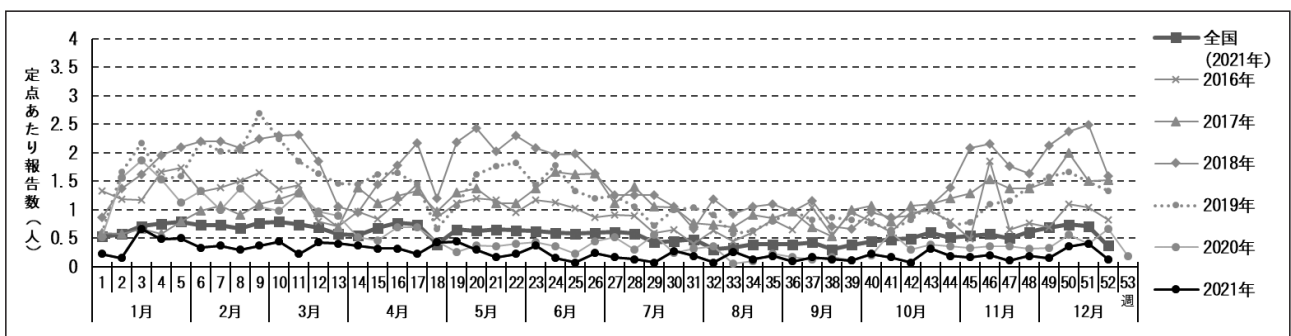


図31 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 発生状況

は同様に推移した。年齢階級別では1歳以下の割合が全体の58.7%を占めた。全国の手足口病患者から検出されたウイルスは、コクサッキーウイルスA6、次いでコクサッキーウイルスA16の順に多く検出された<sup>4)</sup>。

viii) 伝染性紅斑 (図35)

伝染性紅斑は、定点あたり累積報告数が0.56人であり、前年(6.11人)から大幅に減少した。全国と同様、年間を通して低いレベルで推移した。年齢階級別では6歳以下の乳幼児の割合が全体の90.0%を占めた。

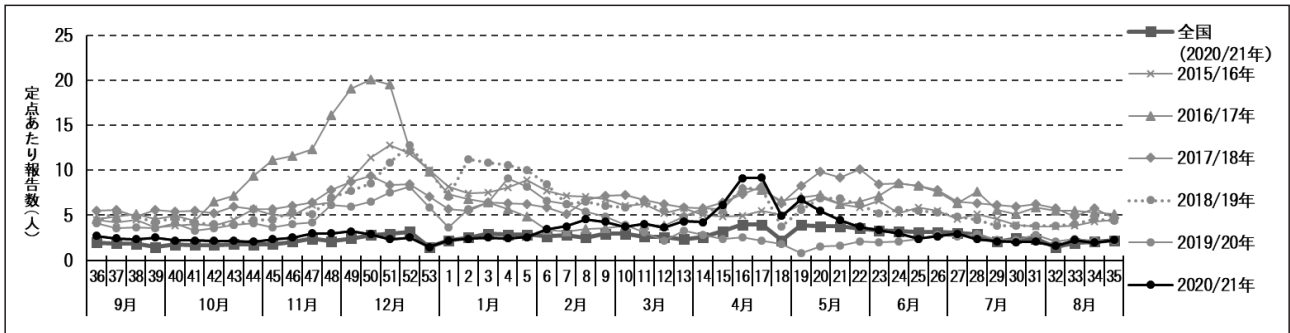


図32 感染性胃腸炎 発生状況

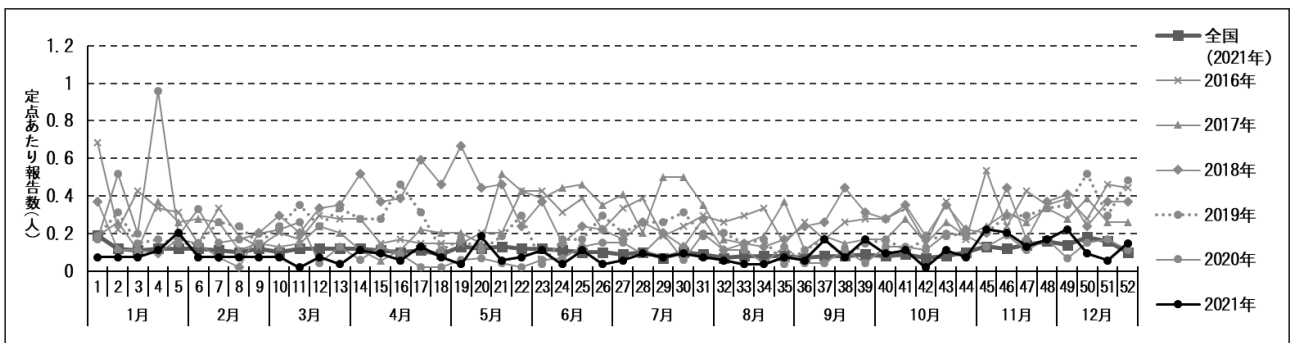


図33 水痘 発生状況

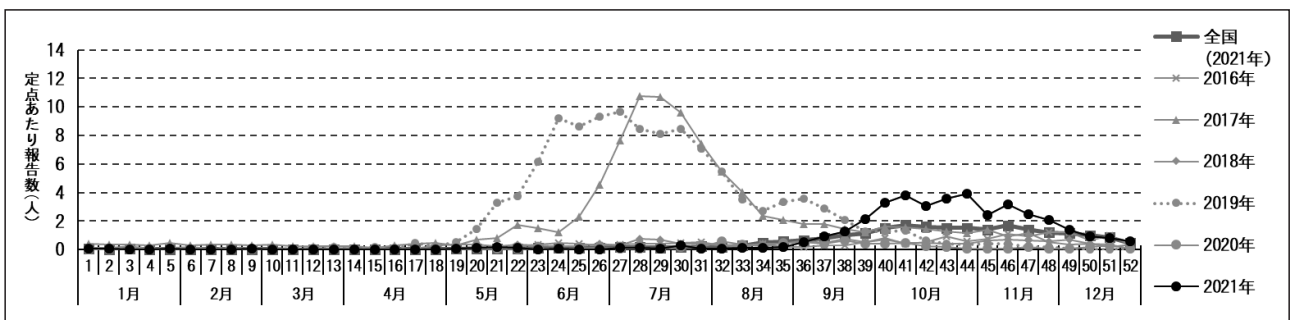


図34 手足口病 発生状況

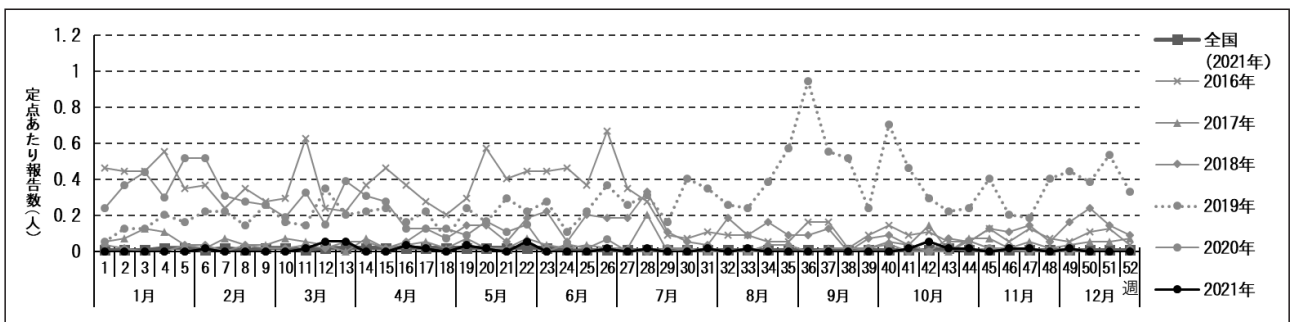


図35 伝染性紅斑 発生状況

ix) 突発性発しん (図36)

突発性発しんは、定点あたり累積報告数が15.52人であり、前年(14.63人)とほぼ同数であった。年間を通して全国より低めに推移した。年齢階級別では1歳以下の割合が全体の86.4%を占めた。

x) ヘルパンギーナ (図37)

ヘルパンギーナは、定点あたり累積報告数が19.00人であり、前年(15.07人)から増加した。全国では、年間を通して低いレベルで推移したが、岡山県では7月に流行のピーク(第29週, 1.65人)があった。年齢階級別では1歳以下(47.8%)が最も多く、5歳以下で全体の96.7%を占めていた。全国のヘルパンギーナの患者から検出されたウイルスは、コクサッキーウイルスA4、次いでコクサッキーウイルスA6の順に多く検出された<sup>4)</sup>。

xi) 流行性耳下腺炎 (図38)

流行性耳下腺炎は、定点あたり累積報告数が2.48人であり、前年(2.61人)から減少した。年間を通して全国とほぼ同様に低いレベルで推移した。年齢階級別では6歳以下の乳幼児の割合が全体の67.2%を占めた。

2.2.2 眼科定点における週報告の感染症 (表4)

i) 急性出血性結膜炎

急性出血性結膜炎は、定点あたり累積報告数が0.25人であり、前年(0.42人)から減少した。

ii) 流行性角結膜炎 (図39)

流行性角結膜炎は、定点あたり累積報告数が3.92人であり、前年(8.34人)から減少した。年齢階級別では、20歳代(27.7%)、30歳代及び40歳代(各17.0%)で多く報告された。

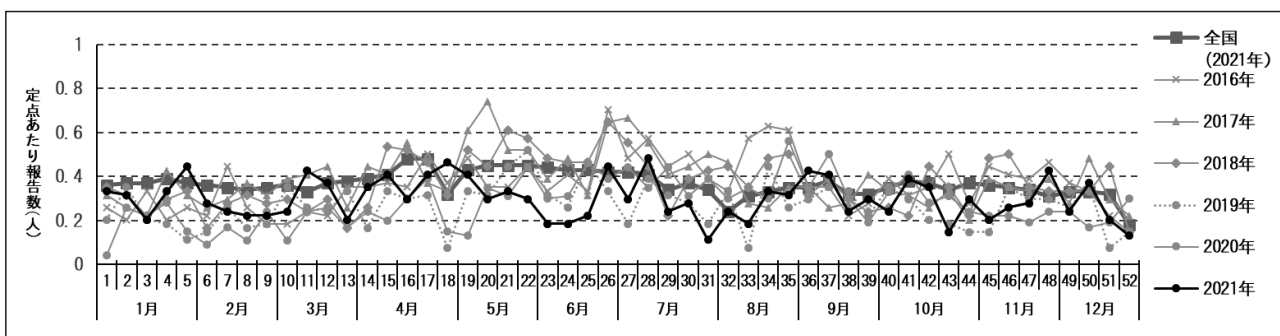


図36 突発性発しん 発生状況

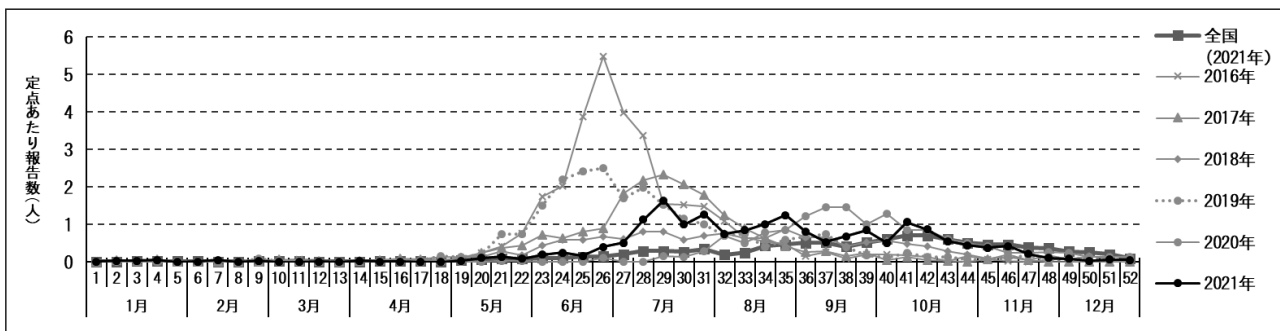


図37 ヘルパンギーナ 発生状況

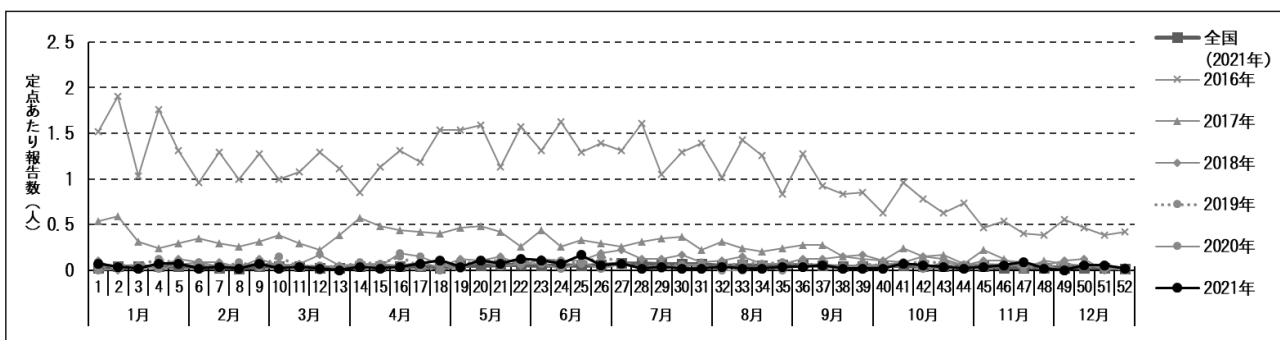


図38 流行性耳下腺炎 発生状況

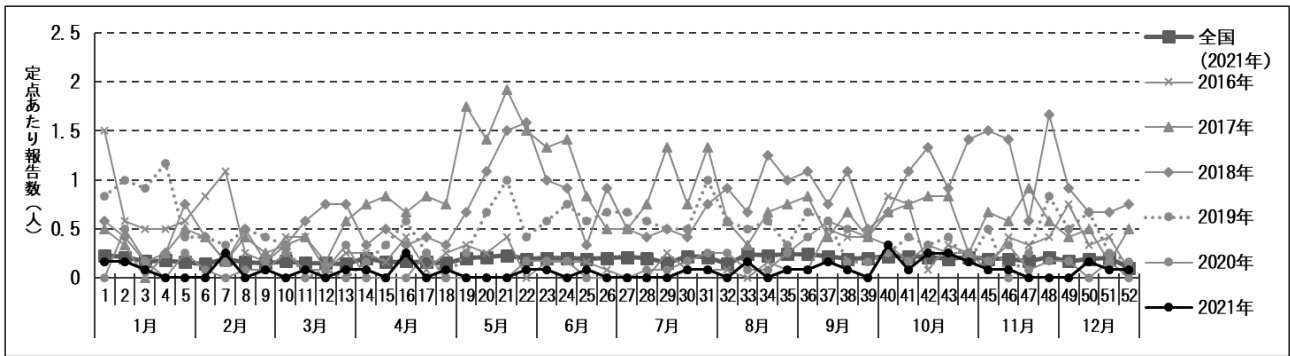


図39 流行性角結膜炎 発生状況

### 2.2.3 基幹定点における週報告の感染症 (表4)

i) 細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌肺炎球菌, インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。)

細菌性髄膜炎は, 定点あたり累積報告数が1.40人であり, 前年 (1.40人) と同数であった。

ii) 無菌性髄膜炎

無菌性髄膜炎は, 定点あたり累積報告数が0.40人であり, 前年 (0.40人) と同数であった。

iii) マイコプラズマ肺炎

マイコプラズマ肺炎は, 定点あたり累積報告数が1.20人であり, 前年 (3.80人) から減少した。

iv) クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)

クラミジア肺炎 (オウム病を除く。 ) は, 定点あたり累積報告数が0人であり, 前年 (0人) と同じであった。

v) 感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)

感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。 ) は, 定点あたり累積報告数が0.20人であり, 前年 (0.20人) と同数であった。

### 2.2.4 性感染症定点における月報告の感染症 (表6, 7)

i) 性器クラミジア感染症

性器クラミジア感染症は, 定点あたり累積報告数が20.12人であり, 前年 (18.12人) から増加したが, 昨年と同様, 全国と比較して少ない報告数であった (図40)。性別では男性19.3%, 女性80.7%で, 女性の割合が高かった。年齢階級別では20歳代が最も多かった (図41)。

ii) 性器ヘルペスウイルス感染症

性器ヘルペスウイルス感染症は, 定点あたり累積報告数が5.41人であり, 前年 (4.41人) から増加した。全国と比較して少ない報告数であった (図42)。性別では男性8.7%, 女性91.3%で, 女性の割合が高かった。年齢階級別では20歳代が最も多かった (図43)。

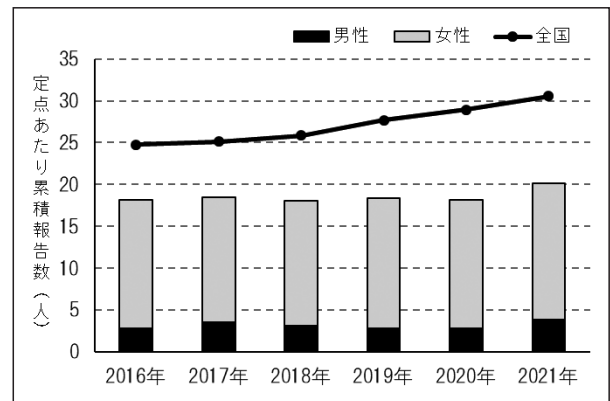


図40 性器クラミジア感染症 年次別発生状況

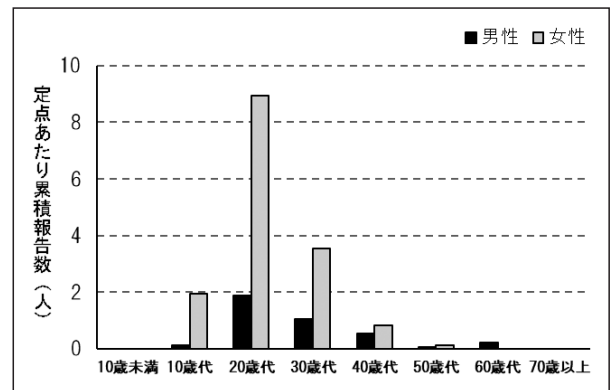


図41 性器クラミジア感染症 年齢階級別発生状況

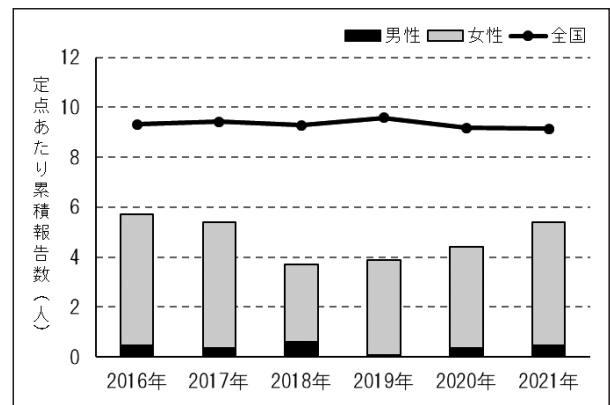


図42 性器ヘルペスウイルス感染症 年次別発生状況

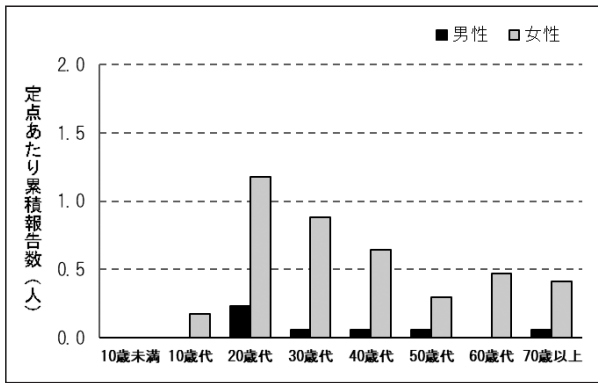


図43 性器ヘルペスウイルス感染症 年齢階級別発生状況

iii) 尖圭コンジローマ感染症

尖圭コンジローマ感染症は、定点あたり累積報告数が2.65人で、前年（1.65人）から増加した。全国と比較して少ない報告数であった（図44）。性別では男性31.1%，女性68.9%で、女性の割合が多かった。年齢階級別では、20歳代及び30歳代が多かった（図45）。

iv) 淋菌感染症

淋菌感染症は、定点あたり累積報告数が4.35人であり、前年（2.76人）から増加した（図46）。2014年から減少傾向にあったが、2021年は全国と同様に増加に転じた。性別は男性36.5%，女性63.5%で、女性の報告数が多かった。年齢階級別では、20歳代が最も多かった（図47）。

2.2.5 基幹定点における月報告の感染症（表6，8）

i) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症は、定点あたり累積報告数が16.00人であり、前年（17.60人）から減少した。年齢階級別では50歳代以上で88.8%を占めていた。

ii) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症は、定点あたり累積報告数が1.40人であり、前年（2.00人）から減少した。

iii) 薬剤耐性緑膿菌感染症

薬剤耐性緑膿菌感染症は、定点あたり累積報告数が0人であり、前年（1.00人）から減少した。

3 まとめ

全数把握感染症のうち、結核の届出数は250例であり、2017年から漸減傾向にある。2019年までは300例以上の届出が続いていたが、2021年は過去5年間と比較して最も届出数が少なかった。年齢階級別では、60歳以上の高齢者が全体の72.0%を占めていた。50歳代以下では、20歳代が最も多かった。重症熱性血小板減少症候群は4～5月と、8～9月に計6例の届出があり、感染症法で全

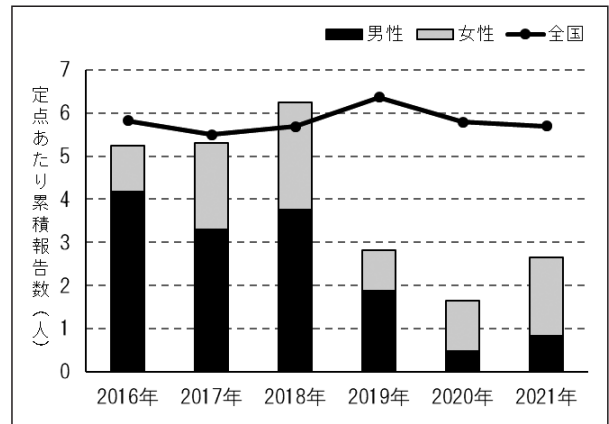


図44 尖圭コンジローマ感染症 年次別発生状況

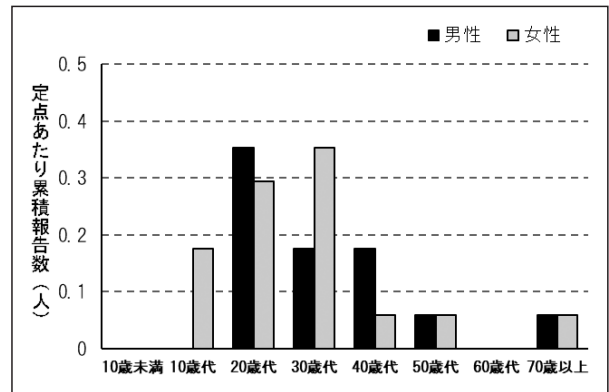


図45 尖圭コンジローマ感染症 年齢階級別発生状況

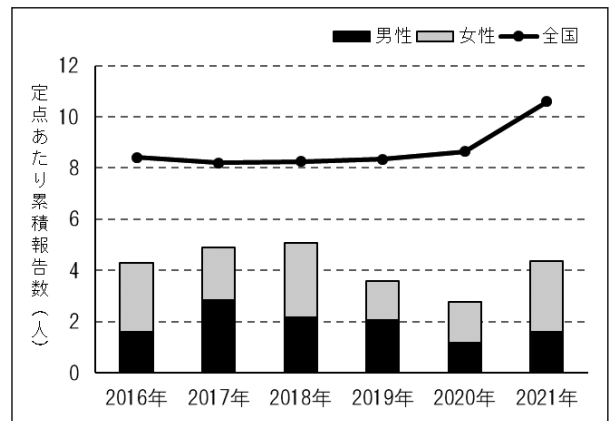


図46 淋菌感染症 年次別発生状況

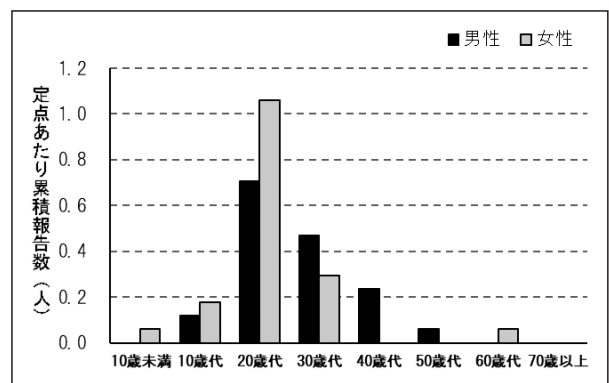


図47 淋菌感染症 年齢階級別発生状況

数把握疾患となった、2013年以降で最多となった2020年（7例）に次ぐ多さとなった。つつが虫病は5月に2例、10月及び11月に各1例ずつの計4例の届出があった。日本紅斑熱は10月（3例）と4月～7月、9月及び11月（各1例ずつ）の計9例の届出があり、2009年の県内初の届出以降最多となった、2020年（11例）に次ぐ多さとなった。これらマダニが媒介する感染症は近年増加傾向にあり、注意が必要である。レジオネラ症の届出数は57例であり、2020年（78例）から減少した。感染原因・経路は、水系感染が最も多く、うち入浴施設の利用が5例で確認された。梅毒の届出数は160例であり、感染症法が施行された1999年以降で最多の届出となった2019年（191例）よりは減少したが、依然として150例を超える状況が継続した。全国の梅毒患者の届出数は2010年以降増加傾向にあり、岡山県でも2014年以降年々増加してきた。人口100万人あたり報告数が、2021年は4位（2020年は全国3位）の報告数となった。特に若年女性を中心に今後の発生動向に十分注意する必要がある。

百日咳は2年連続で顕著に減少し、全数把握疾患となった2018年以降で最少となった。

定点把握感染症に関して、2020/21年シーズンのインフルエンザは、過去5シーズンと比較して最も少なかった。当県でインフルエンザ注意報の制度が開始された2005/06年シーズン以降で初めて、注意報発令基準の1.00人を超過することなくシーズンを終えた。全国の流行状況とほぼ同様の推移であった。

定点把握感染症のうち、RSウイルス感染症、手足口病及びヘルパンギーナについては、増加若しくは大幅な増加が見られ、全国的にも同様の状況であった。RSウイルス感染症については、例年と比較して年齢階級別で2歳以上の割合が高くなり、0歳の占める割合が減少した。手足口病及びヘルパンギーナについては、例年と同様に、5歳以下の乳幼児が大半を占めていた。性感染症定点においては、全て前年から増加した。新型コロナウイルス感染症流行下で感染防止対策の徹底や、外出自粛等の社会活動の変化で飛沫・接触感染が感染経路の中心である感染症は流行がある程度抑制されたがダニ媒介感染症や、梅毒を始めとする性的接触が感染経路の中心である性感染症は、社会生活の変化の影響も受けにくく、感染拡大防止に係るアプローチを要するものと考えられる。

前述のとおり、2021年は新型コロナウイルス感染症の流行が継続しており、感染症の発生状況が2020年と同様に、例年と異なる様相を示した。

今後も引き続き、岡山県感染症情報センターでは、県内の感染症情報の収集・分析を迅速に行い、全国の感染症発生動向にも注意を払いながら、感染症対策の一助となるよう広く情報発信をしていきたい。

表1 感染症法に基づく届出対象感染症(2021年)

1. 全数把握感染症: 全ての医師が、全ての患者発生について届出を行う感染症

<p>【 一類感染症 】 直ちに届出</p> <p>(1) エボラ出血熱 (2) クリア・コンゴ出血熱 (3) 痘そう (4) 南米出血熱 (5) ベスト (6) マールブルグ病 (7) ラッサ熱</p>
<p>【 二類感染症 】 直ちに届出</p> <p>(1) 急性灰白髄炎 (2) 結核 (3) ジフテリア (4) 重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る。) (5) 中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る。) (6) 鳥インフルエンザ(H5N1) (7) 鳥インフルエンザ(H7N9)</p>
<p>【 三類感染症 】 直ちに届出</p> <p>(1) コレラ (2) 細菌性赤痢 (3) 腸管出血性大腸菌感染症 (4) 腸チフス (5) パラチフス</p>
<p>【 四類感染症 】 直ちに届出</p> <p>(1) E型肝炎 (2) ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎含む) (3) A型肝炎 (4) エキノコックス症 (5) 黄熱 (6) オウム病 (7) オムスク出血熱 (8) 回帰熱 (9) キャサナル森林病 (10) Q熱 (11) 狂犬病 (12) コクシジオイデス症 (13) サル痘 (14) ジカウイルス感染症 (15) 重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属 SFTS ウイルスであるものに限る。) (16) 腎症候性出血熱 (17) 西部ウマ脳炎 (18) ダニ媒介脳炎 (19) 炭疽 (20) チクングニア熱 (21) つつが虫病 (22) デング熱 (23) 東部ウマ脳炎 (24) 鳥インフルエンザ(H5N1 及び H7N9 を除く。) (25) ニボウイルス感染症 (26) 日本紅斑熱 (27) 日本脳炎 (28) ハンタウイルス肺炎症候群 (29) Bウイルス病 (30) 鼻疽 (31) ブルセラ症 (32) ベネズエラウマ脳炎 (33) ヘンドラウイルス感染症 (34) 発しんチフス (35) ボツリヌス症 (36) マラリア (37) 野兎病 (38) ライム病 (39) リッサウイルス感染症 (40) リフトバレー熱 (41) 類鼻疽 (42) レジオネラ症 (43) レプトスピラ症 (44) ロッキー山紅斑熱</p>
<p>【 五類感染症の一部 】 7日以内に届出(侵襲性髄膜炎菌感染症, 風しんおよび麻しんは直ちに届出)</p> <p>(1) アメーバ赤痢 (2) ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。) (3) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 (4) 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。) (5) 急性脳炎(ウエストナイル脳炎, 西部ウマ脳炎, ダニ媒介脳炎, 東部ウマ脳炎, 日本脳炎, ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。) (6) クリプトスポリジウム症 (7) クロイツフェルト・ヤコブ病 (8) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (9) 後天性免疫不全症候群 (10) ジアルジア症 (11) 侵襲性インフルエンザ菌感染症 (12) 侵襲性髄膜炎菌感染症 (13) 侵襲性肺炎球菌感染症 (14) 水痘(入院例に限る。) (15) 先天性風しん症候群 (16) 梅毒 (17) 播種性クリプトコックス症 (18) 破傷風 (19) パイコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (20) バンコマイシン耐性腸球菌感染症 (21) 百日咳 (22) 風しん (23) 麻しん (24) 薬剤耐性アシネトバクター感染症</p>
<p>【 新型インフルエンザ等感染症 】 直ちに届出</p> <p>新型コロナウイルス感染症(病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。)であるものに限る。) 注)令和3年2月13日から施行。それ以前は「指定感染症」</p>

2. 定点把握感染症(五類感染症): 指定した医療機関が、患者の発生について届出を行う感染症

① 週単位報告

<p>【 小児科定点 】</p> <p>(1) RSウイルス感染症 (2) 咽頭結膜熱 (3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (4) 感染性胃腸炎 (5) 水痘 (6) 手足口病 (7) 伝染性紅斑 (8) 突発性発しん (9) ヘルパンギーナ (10) 流行性耳下腺炎</p>
<p>【 インフルエンザ定点 】</p> <p>(1) インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)</p>
<p>【 眼科定点 】</p> <p>(1) 急性出血性結膜炎 (2) 流行性角結膜炎</p>
<p>【 基幹定点 】</p> <p>(1) 感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。) (2) クラミジア肺炎(オウム病を除く) (3) 細菌性髄膜炎(髄膜炎菌, 肺炎球菌, インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。) (4) マイコプラズマ肺炎 (5) 無菌性髄膜炎</p>

② 月単位報告

<p>【 性感染症定点 】</p> <p>(1) 性器クラミジア感染症 (2) 性器ヘルペスウイルス感染症 (3) 尖圭コンジローマ (4) 淋菌感染症</p>
<p>【 基幹定点 】</p> <p>(1) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 (2) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (3) 薬剤耐性緑膿菌感染症</p>

表2 全数把握感染症 月別患者発生状況

2021年

	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
一類感染症													
エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
痘苗	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南米出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ベニグン病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マールブルグ病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ラッサ熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性灰白髄炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
二類感染症													
結核	250	19	17	26	21	12	26	23	34	19	17	21	15
重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中東呼吸器症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三類感染症													
コレラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性赤痢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
腸管出血性大腸菌感染症	81	1	1	2	1	2	7	11	12	18	19	5	2
腸チフス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
パルチフス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
E型肝炎	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A型肝炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オーストラリア熱	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
オーストラリア熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
回帰熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キヤサヌル森林病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
狂犬病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コクシジオリデス症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サルモネラ感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
重症熱性血小板減少症候群	6	-	-	-	2	1	-	-	2	1	-	-	-
腎臓出血	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
炭疽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
チクングニア熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
つづが虫熱	4	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1	1	-
デング熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥インフルエンザ(H5N1を除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ニパウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日本脳炎	9	-	-	-	1	1	1	1	-	1	3	1	-
日本脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B型肝炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鼻疽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ブルセラマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
発しんチフス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ポツリチフス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マラリア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
野兔病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ライム病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
リッサウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
リフトバレー熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
類鼻疽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
レジオネラ症	57	5	4	2	6	6	6	15	5	1	-	6	1
レプトスピラ症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ロッキーマウンテン熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五類感染症													
アムニオニチス	14	-	1	-	1	2	1	1	4	1	2	-	1
ウイルス性肝炎(E・Aを除く)	4	-	-	1	-	-	1	1	-	-	-	-	1
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	32	1	1	4	2	2	2	4	7	2	3	2	2
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)*	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
急性脳炎	8	2	-	2	2	-	-	1	-	1	-	-	-
クリプトスポリジウム症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4	-	1	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-
後天性免疫不全症候群	13	2	-	-	-	-	1	2	2	2	3	-	1
ジアルジア症	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
侵襲性肺炎球菌感染症	17	1	2	1	2	2	-	1	1	1	2	1	3
水痘(入院例)	9	-	-	1	-	-	1	1	-	-	-	3	3
先天性風しん症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
梅毒	160	3	12	9	10	10	15	15	17	18	14	23	14
播種性クリプトコッカス症	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
破傷風	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	15	1	1	1	3	1	1	2	2	1	1	-	1
風しん	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
麻疹	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

\*ウエストナイル脳炎, 西部ウマ脳炎, ダニ媒介脳炎, 東部ウマ脳炎日本脳炎, ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。



表3 全数把握感染症 年齢別患者発生状況

2021年

		総数	0～9歳	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳～
一類感染症	エボラ出血熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	クリミア・コンゴ出血熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	痘苗	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	南米出血熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ペーブルグ病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
二類感染症	ラッサ熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	急性灰白髄炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	結核	250	5	4	28	7	16	10	23	48	66	43
	重症急性呼吸器症候群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	中東呼吸器症候群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三類感染症	鳥インフルエンザ(H5N1)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	鳥インフルエンザ(H7N9)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	コレラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	細菌性赤痢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	腸管出血性大腸菌感染症	81	13	6	19	11	11	5	4	11	—	1
四類感染症	パルチフ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	E型肝炎	2	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—
	ウエストナイル熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	A型肝炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	エキノкокス症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	黄熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	オウムム	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—
	オムス出血熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	回帰熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	キヤサヌル森林病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	Q熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	狂犬病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	コクシジオイデス症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	サル	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ジカウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	重症熱性血小板減少症候群	6	—	—	—	—	—	1	1	1	3	—
	腎症候群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	西部ウマ脳炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ダニ媒介脳炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	炭疽	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	チクングニア熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	つが虫病	4	—	—	—	—	—	—	—	1	2	1
	デング熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	東部ウマ脳炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ニパウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
日本紅斑熱	9	—	—	—	—	1	1	2	3	2	—	
日本脳炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ハンタウイルス肺症候群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
Bウイルス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
鼻疽	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ブルセラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ペネズエラウマ脳炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ヘンドラウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
発しんチフス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ボツリヌス症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
マラリア	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
野兔病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ライム病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
リッサウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
リフトバレー熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
類鼻疽	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
レジオネラ症	57	—	—	—	2	2	6	17	18	4	8	
レプトスピラ症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ロッキーマン紅斑熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
五類感染症	アムール赤痢	14	—	—	—	2	2	4	4	2	—	—
	ウイルス性肝炎(E・Aを除く)	4	—	—	2	1	—	—	—	1	—	—
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	32	—	1	—	—	3	4	5	14	5	—
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)*	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
	急性脳炎	8	6	1	—	—	—	1	—	—	—	—
	クリプトスポリジウム症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	クロイツフェルト・ヤコブ病	4	—	—	—	—	—	1	—	2	1	—
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1
	後天性免疫不全症候群	13	—	—	1	8	3	—	1	—	—	—
	ジアルジア症	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	侵襲性髄膜炎菌感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	侵襲性肺炎球菌感染症	17	5	—	—	—	—	—	5	5	1	1
	水痘(入院例)	9	—	—	2	4	2	—	—	1	—	—
	先天性風しん症候群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
梅毒	160	—	7	53	36	33	19	8	1	1	2	
症	播種性クリプトコックス症	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—
	破傷風	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	百日咳	15	4	2	1	2	3	1	—	1	1	—
	風しん	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	麻疹	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
薬剤耐性アシネトバクター感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

\*ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

表4 定点把握対象感染症の発生状況

定点あたり報告数、週別（小児科定点、インフルエンザ（小児科・内科）定点、眼科定点、基幹定点）

2021年

	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	（ロタウイルス） 感染性胃腸炎
総数	0.64	39.44	7.11	13.17	180.17	4.85	38.94	0.56	15.52	19.00	2.48	0.25	3.92	1.40	0.40	1.20	0.00	0.20
1週	0.05	—	0.28	0.22	2.19	0.07	0.06	—	0.33	0.02	0.07	—	0.17	—	—	—	—	—
2週	0.06	—	0.19	0.15	2.37	0.07	0.09	—	0.31	0.04	0.04	—	0.17	—	—	0.20	—	—
3週	0.07	0.02	0.15	0.67	2.50	0.07	0.02	—	0.20	0.04	0.02	—	0.08	—	0.20	—	—	—
4週	0.11	—	0.56	0.48	2.44	0.11	0.04	—	0.33	0.06	0.07	—	—	—	—	—	—	—
5週	—	0.04	0.30	0.50	2.56	0.20	0.06	—	0.44	—	0.07	—	—	—	—	—	—	—
6週	—	—	0.19	0.33	3.43	0.07	0.04	0.02	0.28	0.02	0.02	—	—	—	—	—	—	—
7週	0.06	0.02	0.09	0.37	3.83	0.07	0.04	—	0.24	0.06	0.04	—	0.25	—	—	—	—	—
8週	0.02	—	0.19	0.30	4.57	0.07	0.02	—	0.22	—	0.02	—	—	—	—	—	—	—
9週	—	0.02	0.09	0.37	4.26	0.07	0.06	—	0.22	0.04	0.07	—	0.08	—	—	0.20	—	—
10週	0.02	0.02	0.13	0.44	3.70	0.07	0.04	—	0.24	—	0.02	—	—	—	—	—	—	—
11週	0.01	—	0.15	0.22	4.06	0.02	0.02	0.02	0.43	—	0.04	—	0.08	—	—	—	—	—
12週	0.01	—	0.07	0.43	3.63	0.07	0.02	0.06	0.37	0.02	0.02	—	—	—	—	—	—	—
13週	—	—	0.09	0.41	4.33	0.04	0.02	0.06	0.20	—	—	—	0.08	—	—	—	—	—
14週	—	0.02	0.11	0.37	4.22	0.11	0.06	—	0.35	0.04	0.04	—	0.08	—	—	—	—	—
15週	—	0.15	0.11	0.31	6.17	0.09	—	—	0.41	0.02	0.02	—	—	—	—	—	—	—
16週	0.01	0.22	0.20	0.31	9.11	0.06	0.02	0.04	0.30	0.02	0.04	—	0.25	—	—	—	—	—
17週	0.01	0.30	0.19	0.22	9.17	0.13	0.04	0.02	0.41	—	0.07	—	—	—	—	—	—	—
18週	—	0.15	0.09	0.43	4.93	0.07	0.04	—	0.46	—	0.11	—	0.08	—	—	—	—	—
19週	—	0.39	0.19	0.44	6.80	0.04	0.06	0.04	0.41	0.04	0.04	—	—	—	—	—	—	—
20週	—	0.70	0.39	0.30	5.50	0.19	0.13	0.02	0.30	0.11	0.11	—	—	—	—	—	—	—
21週	—	1.24	0.22	0.17	4.48	0.06	0.17	—	0.33	0.15	0.07	—	—	—	—	—	—	—
22週	0.01	1.04	0.20	0.22	3.74	0.07	0.11	0.06	0.30	0.09	0.13	—	0.08	—	—	—	—	0.20
23週	—	1.07	0.37	0.37	3.33	0.11	0.02	—	0.19	0.20	0.11	—	0.08	0.20	0.20	—	—	—
24週	0.01	1.48	0.17	0.15	3.00	0.04	0.07	—	0.19	0.26	0.07	—	—	—	—	—	—	—
25週	—	1.43	0.11	0.09	2.39	0.11	0.02	—	0.22	0.17	0.17	—	0.08	—	—	—	—	—
26週	—	2.02	0.07	0.24	2.67	0.04	0.02	0.02	0.44	0.41	0.06	—	—	—	—	—	—	—
27週	—	3.30	0.15	0.17	2.94	0.06	0.13	—	0.30	0.52	0.07	—	—	—	—	0.20	—	—
28週	—	4.54	0.11	0.13	2.35	0.09	0.15	0.02	0.48	1.13	0.02	—	—	—	—	—	—	—
29週	0.01	4.41	0.15	0.07	2.09	0.07	0.09	—	0.24	1.65	0.04	—	—	—	—	0.20	—	—
30週	—	3.65	0.04	0.28	2.02	0.09	0.28	—	0.28	1.00	0.02	—	0.08	—	—	—	—	—
31週	—	3.00	0.13	0.19	2.07	0.07	0.09	0.02	0.11	1.28	0.02	—	0.08	—	—	—	—	—
32週	—	2.17	0.06	0.07	1.56	0.06	0.07	—	0.24	0.76	0.04	—	—	—	—	0.20	—	—
33週	—	1.94	0.13	0.26	2.24	0.04	0.11	0.02	0.19	0.85	0.02	—	0.17	—	—	—	—	—
34週	—	2.06	0.02	0.13	1.98	0.04	0.13	—	0.33	1.02	0.02	—	—	—	—	—	—	—
35週	—	1.48	0.09	0.19	2.22	0.07	0.20	—	0.31	1.26	0.04	—	0.08	—	—	—	—	—
36週	—	0.81	0.07	0.09	2.63	0.06	0.52	—	0.43	0.81	0.04	—	0.08	—	—	—	—	—
37週	—	0.48	0.02	0.17	2.28	0.17	0.93	—	0.41	0.54	0.06	—	0.17	—	—	—	—	—
38週	—	0.30	—	0.13	2.15	0.07	1.26	—	0.24	0.69	0.02	—	0.08	0.20	—	—	—	—
39週	—	0.07	0.02	0.11	2.07	0.17	2.15	—	0.30	0.85	0.02	0.17	—	—	—	—	—	—
40週	—	0.06	0.02	0.22	2.15	0.09	3.30	—	0.24	0.52	0.02	—	0.33	—	—	—	—	—
41週	—	0.06	0.06	0.17	2.07	0.11	3.80	0.02	0.39	1.07	0.07	—	0.08	0.20	—	—	—	—
42週	—	0.02	0.02	0.07	1.85	0.02	3.07	0.06	0.35	0.87	0.06	—	0.25	—	—	—	—	—
43週	—	0.02	0.02	0.31	2.78	0.11	3.59	0.02	0.15	0.56	0.04	0.08	0.25	0.20	—	—	—	—
44週	0.01	0.02	0.04	0.19	2.24	0.07	3.94	0.02	0.30	0.44	0.02	—	0.17	—	—	—	—	—
45週	0.02	—	0.04	0.17	2.07	0.22	2.44	—	0.20	0.39	0.04	—	0.08	—	—	—	—	—
46週	—	0.09	0.02	0.20	2.46	0.20	3.19	0.02	0.26	0.43	0.06	—	0.08	—	—	—	—	—
47週	0.02	0.15	0.13	0.11	2.59	0.13	2.48	0.02	0.28	0.22	0.09	—	—	0.20	—	—	—	—
48週	0.01	0.11	0.11	0.19	3.13	0.17	2.06	—	0.43	0.11	0.02	—	—	—	—	—	—	—
49週	0.02	0.11	0.09	0.15	4.59	0.22	1.41	0.02	0.24	0.09	—	—	—	—	0.20	—	—	—
50週	0.04	0.06	0.17	0.35	5.48	0.09	0.91	—	0.37	0.04	0.06	—	0.17	0.40	—	—	—	—
51週	0.01	0.19	0.37	0.41	5.43	0.06	0.83	—	0.20	0.07	0.06	—	0.08	—	—	—	—	—
52週	0.02	0.06	0.17	0.13	5.33	0.15	0.57	—	0.13	0.06	0.02	—	0.08	—	—	—	—	—

表5 週報告 定点把握感染症（小児科定点、インフルエンザ（小児科・内科）定点、眼科定点、基幹定点）年齢階級別患者報告数

疾患名	年齢区分 インフル 小児科 眼 基	2021年																				
		合計	～6か月	～12か月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
		合計	～6か月	～12か月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	
		合計	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上				
インフルエンザ	イ	54	-	-	4	3	3	-	2	-	1	2	-	6	3	6	5	2	2	2	4	9
RSウイルス感染症	小	2130	320	332	759	380	216	80	21	12	1	-	1	2	-	6						
咽頭結膜熱	小	384	-	32	195	60	35	20	10	6	2	3	1	6	-	14						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	小	711	1	4	39	61	77	84	83	96	57	46	46	73	11	33						
感染性胃腸炎	小	9729	121	626	1856	1313	896	664	571	433	355	307	294	848	239	1206						
水痘	小	262	5	20	37	14	15	14	26	33	17	18	7	48	6	2						
手足口病	小	2103	26	166	1043	548	160	73	36	15	7	4	6	7	3	9						
伝染性紅斑	小	30	1	5	10	4	3	1	3	-	-	-	1	2	-	-						
突発性発しん	小	838	18	248	458	75	25	9	4	-	-	-	1	-	-	-						
ヘルパンギーナ	小	1026	4	104	382	285	130	57	30	12	7	3	3	8	-	1						
流行性耳下腺炎	小	134	-	-	4	14	11	16	23	22	15	10	3	14	-	2						
急性出血性結膜炎	眼	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	1	
流行性角結膜炎	眼	47	1	-	-	-	2	1	-	-	-	2	-	1	3	13	8	8	4	4	-	
細菌性髄膜炎	基	9	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	1	1	2				
無菌性髄膜炎	基	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
マイコプラズマ肺炎	基	6	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3		
クラミジア肺炎	基	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	基	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

表6 月報告 定点把握感染症（性感染症定点、基幹定点）月別、定点あたり報告数

疾患名		総計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
性 感 染 症 定 点	性器クラミジア 感染症	計	20.12	1.53	1.71	1.53	1.88	1.41	1.06	2.24	1.29	1.82	2.00	2.24	1.41
		男性	3.88	0.41	0.24	0.18	0.35	-	0.12	0.71	0.29	0.06	0.82	0.41	0.29
		女性	16.24	1.12	1.47	1.35	1.53	1.41	0.94	1.53	1.00	1.76	1.18	1.82	1.12
	性器ヘルペス ウイルス感染症	計	5.41	0.41	0.53	0.65	0.41	0.59	0.41	0.41	0.35	0.41	0.29	0.41	0.53
		男性	0.47	-	0.06	0.12	-	0.06	-	0.12	0.06	-	0.06	-	-
		女性	4.94	0.41	0.47	0.53	0.41	0.53	0.41	0.29	0.29	0.41	0.24	0.41	0.53
	尖圭 コンジローマ	計	2.65	0.06	0.29	0.29	0.18	0.06	0.29	0.53	0.12	0.24	0.24	0.29	0.06
		男性	0.82	0.06	0.06	0.18	0.06	-	0.06	0.18	-	0.06	0.18	-	-
		女性	1.82	-	0.24	0.12	0.12	0.06	0.24	0.35	0.12	0.18	0.06	0.29	0.06
	淋菌感染症	計	4.35	0.47	0.41	0.35	0.41	0.12	0.29	0.41	0.35	0.24	0.47	0.29	0.53
		男性	1.59	0.24	0.18	0.06	0.12	-	0.06	0.35	0.12	-	0.18	0.12	0.18
		女性	2.76	0.24	0.24	0.29	0.29	0.12	0.24	0.06	0.24	0.24	0.29	0.18	0.35
基 幹 定 点	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌 感染症	計	16.00	1.00	1.00	1.40	1.60	1.00	1.60	1.60	1.60	1.00	1.40	1.80	1.00
		男性	12.60	0.60	0.80	1.00	1.40	1.00	1.20	1.20	1.60	1.00	1.00	1.00	0.80
		女性	3.40	0.40	0.20	0.40	0.20	-	0.40	0.40	-	-	0.40	0.80	0.20
	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	計	1.40	-	-	-	-	-	-	-	0.60	-	0.40	0.40	-
		男性	1.00	-	-	-	-	-	-	-	0.40	-	0.40	0.20	-
		女性	0.40	-	-	-	-	-	-	-	0.20	-	-	0.20	-
	薬剤耐性 緑膿菌感染症	計	0.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		男性	0.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		女性	0.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表7 月報告 定点把握感染症（性感染症定点）年齢階級別患者報告数

2021年

疾患名		0歳	1歳～	5歳～	10歳～	15歳～	20歳～	25歳～	30歳～	35歳～	40歳～	45歳～	50歳～	55歳～	60歳～	65歳～	70歳～	総計
性器クラミジア 感染症	計	—	—	—	1	27	124	77	46	32	23	6	2	—	3	1	—	342
	男性	—	—	—	—	2	20	12	11	7	7	2	1	—	3	1	—	66
	女性	—	—	—	1	25	104	65	35	25	16	4	1	—	—	—	—	276
性器ヘルペス ウイルス感染症	計	—	—	—	—	—	17	11	6	10	11	7	6	7	2	1	14	92
	男性	—	—	—	—	—	2	2	—	1	1	—	—	1	—	—	1	8
	女性	—	—	—	—	—	15	9	6	9	10	7	6	6	2	1	13	84
尖圭コンジローマ	計	—	—	—	—	3	14	5	4	7	8	1	1	—	1	—	1	45
	男性	—	—	—	—	—	5	1	1	2	3	—	1	—	—	—	1	14
	女性	—	—	—	—	3	9	4	3	5	5	1	—	—	1	—	—	31
淋菌感染症	計	—	—	1	—	9	16	15	10	9	6	5	2	1	—	—	—	74
	男性	—	—	—	—	2	5	7	5	3	2	2	1	—	—	—	—	27
	女性	—	—	1	—	7	11	8	5	6	4	3	1	1	—	—	—	47

表8 月報告 定点把握感染症（基幹定点）年齢階級別患者報告数

2021年

疾患名	0歳	1歳～	5歳～	10歳～	15歳～	20歳～	25歳～	30歳～	35歳～	40歳～	45歳～	50歳～	55歳～	60歳～	65歳～	70歳～	総計
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	2	—	—	—	—	1	1	—	—	4	1	3	6	4	7	51	80
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	5	7
薬剤耐性緑膿菌感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0

## 文 献

- 1) 公益財団法人 結核予防会結核研究所 疫学情報センター：年報 2021,  
<https://jata-ekigaku.jp/nenpou/> (2022.9.22 アクセス)
- 2) 国立感染症研究所：AIDS（後天性免疫不全症候群）とは,  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/400-aids-intro.html> (2022.9.21 アクセス)
- 3) 国立感染症研究所：感染症発生動向調査からみる2018年から2021年の我が国のRSウイルス感染症の状況,  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rs-virus-m/rs-virus-idwrs/11487-rsv-20220916.html> (2022.9.21 アクセス)
- 4) 国立感染症研究所：病原微生物検出情報,  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr/510-surveillance/iasr/graphs/1532-iasrgv.html> (2022.9.22 アクセス)

【資料】

## 岡山県における新型コロナウイルス感染症の発生状況について（2021年）

COVID-19 Surveillance Reports in Okayama Prefecture (2021)

北村雅美, 木下浩行, 林 隆義, 望月 靖

KITAMURA Masami, KINOSHITA Hiroyuki, HAYASHI Takayoshi, MOCHIZUKI Yasushi

[キーワード：新型コロナウイルス感染症, サーベイランス, クラスター]

[Key words : COVID-19, Epidemiological surveillance, Cluster]

### 1 はじめに

新型コロナウイルス感染症は、2019年12月中華人民共和国湖北省武漢市において確認されて以降、急速に世界的に流行が拡大した。2020年1月30日、世界保健機関（WHO）により「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」が宣言され、2020年3月11日にはパンデミック（世界的な大流行）の状態にあるとの表明がなされた<sup>1)</sup>。日本国内では2020年1月に初めて感染者が確認され、その後複数回の感染者の大規模な発生を経て、全国的な流行拡大が継続している。当該感染症の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（平成10年法律第104号。以下「感染症法」という。）による位置づけは、当初、感染症法第14条第1項に基づく疑似症サーベイランスの対象であったが、2020年2月1日に感染症法第6条第8項に基づく指定感染症に指定され、その後、2021年2月13日に新型インフルエンザ等感染症に変更された。岡山県においても流行に関して例外ではなく、国内の大規模な発生時期（波）に概ね合った形で、多くの感染者が発生している。ここでは本県の2021年の発生状況を概観する。

### 2 感染症発生動向調査

#### 2.1 調査方法

解析に用いたデータは、岡山県のデータについては県の公表資料の他、新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム（HER-SYS：Health Center Real-time Information-sharing System on COVID-19：以下「HER-SYS」という。）に報告された各関係機関からの感染者情報を用いた。また、全国のデータは、厚生労働省の公表データや国立社会保障・人口問題研究所の集計データ等を用い、解析を行った。

#### 2.2 調査期間

2021年1月1日～12月31日とした。公表資料から作

成したグラフは公表日を基準とした。なお、本県の死亡者については、2022年10月4日時点で、2021年中に死亡したとしてHER-SYSに登録されていた事例をデータとして用いた。

### 3 結果

#### 3.1 月別発生状況（公表資料より）

岡山県では、2021年1月は前年12月から続くいわゆる流行の「第3波」の只中にあった。全国的には緊急事態宣言が発出されており、首都圏や関西、九州などの一部がその区域に指定された。

その後2月及び3月は感染者数が減少したが、4月は増加に転じ、いわゆる流行の「第4波」となり、1月の感染者数を超過した（1月975名、4月1,253名）。5月に入ると更に感染者数が急増し、1月の約3.5倍の感染者数となり（3,394名）、5月16日から本県も緊急事態宣言の区域に指定された。このとき、県内の流行株は、第3波で感染の主流であったB.1.1.214及びB.1.1.284の2系統<sup>2)</sup>からアルファ株にほぼ置き換わっていた。その後6月には感染者数は大幅に減少し（250名）、緊急事態宣言の区域の指定も6月20日までとなった。

しかし、7月から感染者数は増加に転じた（いわゆる流行の「第5波」）。岡山県では7月の感染者数は595名、8月は5,198名となり、これまでに経験したことのない規模の発生状況となった。本県は、8月20日から新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置の区域に指定されていたが、8月27日からは緊急事態宣言の区域とされた。この時期は、全国的にみてもデルタ株のスクリーニング検査陽性率がほぼ100%となっており（8月30日時点<sup>3)</sup>、県内の流行株も、第4波で感染の主流であったアルファ株からデルタ株にほぼ置き換わっていた<sup>3)</sup>。その後9月には感染者数は減少（1,711名）し、緊急事態宣言の区域は9月12日までの指定となり、9月13日からまん

延防止等重点措置の実施区域とされた（9月30日まで）。10月から12月までは感染者数が減少し、低い水準を維持した。本県の月別発生状況（図1）は、全国（図2）と比較すると、5月の感染者数の増加が顕著となっていた。

なお、県内の流行株の変遷の詳細については、本年報の「岡山県におけるSARS-CoV-2の次世代シーケンサーによる全ゲノム解析調査（2020-2022）」<sup>4)</sup>で報告されている。

### 3.2 性別、年齢階級別発生状況（公表資料より）

調査期間における本県の感染者の性別は、男性7,035名、女性5,678名、性別非公表1,479名であった。年齢階

級別では、20歳代が3,521名で最も多く、次いで30歳代2,101名、40歳代2,035名、50歳代1,611名の順であった（図3）。全国の2020年12月29日から2022年1月4日までの感染者の年齢階級別を示す（図4）。本県と全国の発生状況を比較すると、20歳代に次いで30～40歳代が多かった点は同様であったが、一方で本県では10歳未満が少なく、70歳代以上が多かった。これは、2020年と同様の傾向であったが、年齢階級非公表の事例があり、結果の解釈には注意を要する<sup>5)</sup>。

なお、本県の2020年と2021年の年齢階級別発生割合を比較すると（図5）、2021年は特に20歳代以下の若年

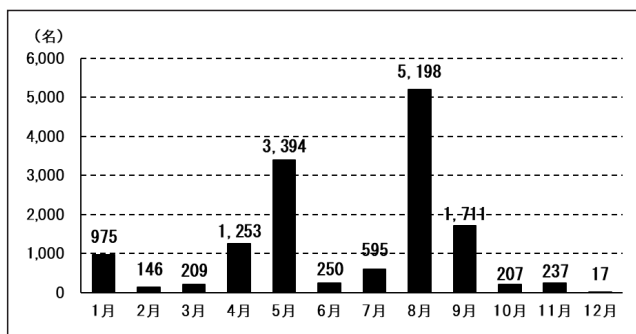


図1 月別発生状況（岡山県）

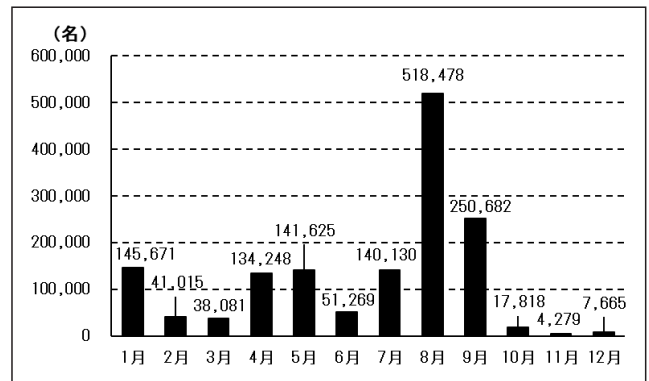


図2 月別発生状況（全国）

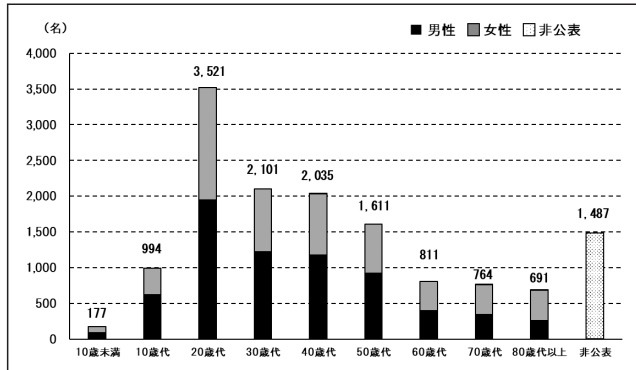


図3 年齢階級別発生状況（岡山県）

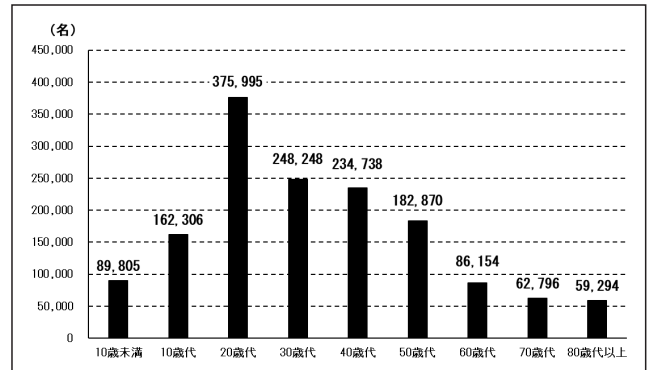


図4 年齢階級別発生状況（全国，2020年12月29日～2022年1月4日，非公表除く）

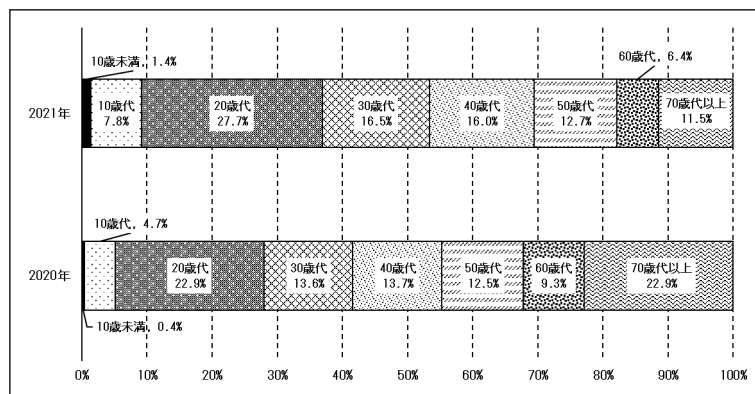


図5 2020年と2021年の年齢階級別発生割合比較（岡山県）

層の割合が顕著に増加し、60歳以上の高齢者の割合が減少した。

### 3.3 クラスター種類別発生状況（公表資料より）

本県で発生したクラスターは、施設数では、「会社・事業所等」の44施設が最も多く、次いで「高齢者施設」の23施設、「接待を伴う飲食店」の18施設の順であった（図6）。

感染者数でも、「会社・事業所」が467名と最も多く、次いで「高齢者施設」の297名、「接待を伴う飲食店」の219名の順であった（図7）。また、週単位のクラスター発生施設数としては、第34週（8/23～8/29）及び第35週（8/30～9/5）の14施設が最も多かった（図8）。

### 3.4 岡山県における死亡者

本県の公表資料から作成した、日単位の死亡者の発生

状況、及び死亡者数の累積状況を示す（図9及び10）。死亡者数は第4波の方が、感染者数が急増した第5波よりも多かった。

### 3.5 年齢階級別死亡者割合

本県で2021年中に死亡したとしてHER-SYSに登録されていた99名の年齢階級別のグラフを図11に示す。全国の年齢階級別死亡者数については、国立社会保障・人口問題研究所が自治体データに基づいて作成したデータ<sup>6</sup>を用いて、グラフを作成した（図12）。本県の死亡者は、全国と同様、80歳以上の高齢者に多く認められた。

### 3.6 変異株の状況について

アルファ株は、2020年12月上旬に英国で最初に報告された変異株である。イングランド南東部で確認され、英国の感染者の急増の原因となり、その後世界各地で確認

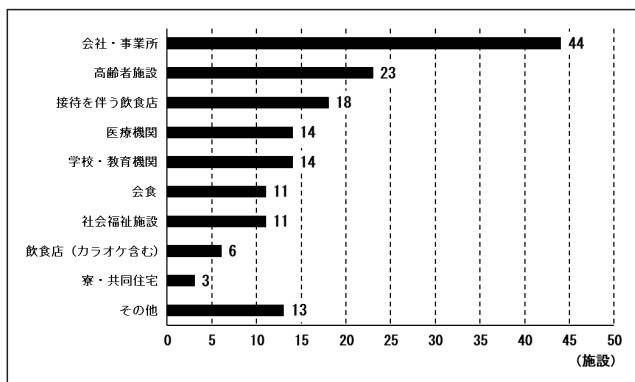


図6 クラスター発生状況（施設数）

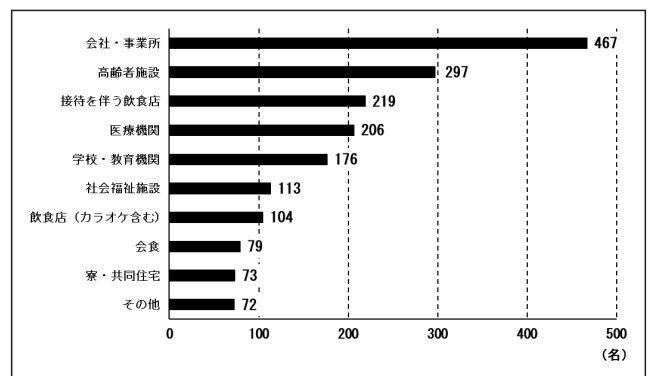
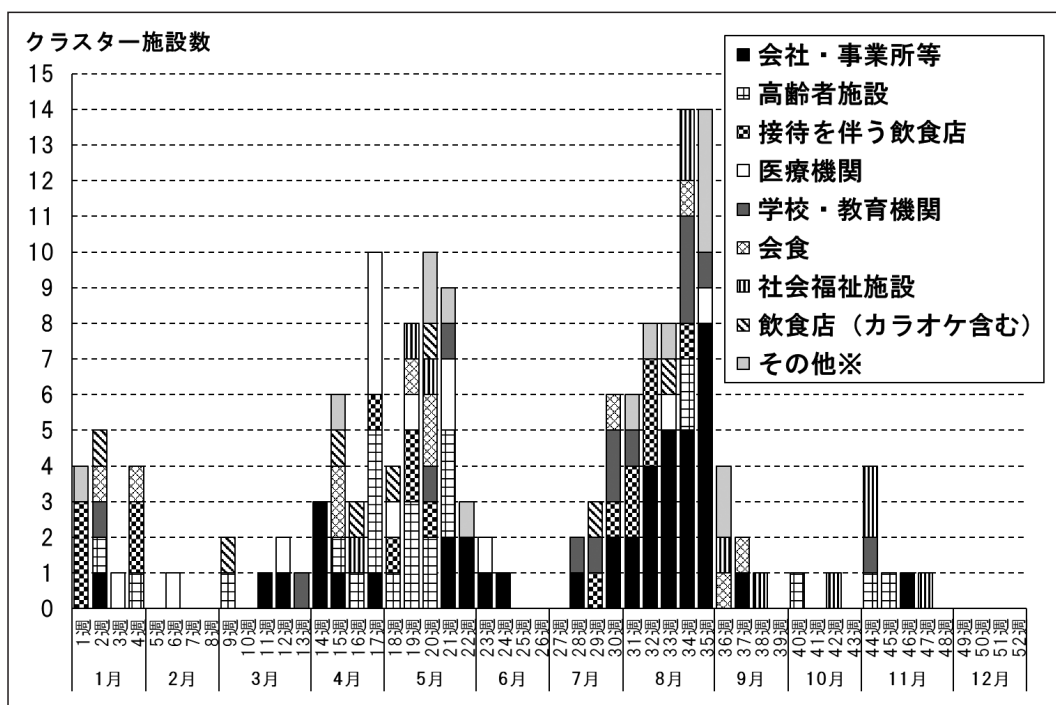


図7 クラスター発生状況（感染者数）



※その他：寮，共同住宅，喫煙所，塾など

図8 週単位クラスター発生状況（施設数）

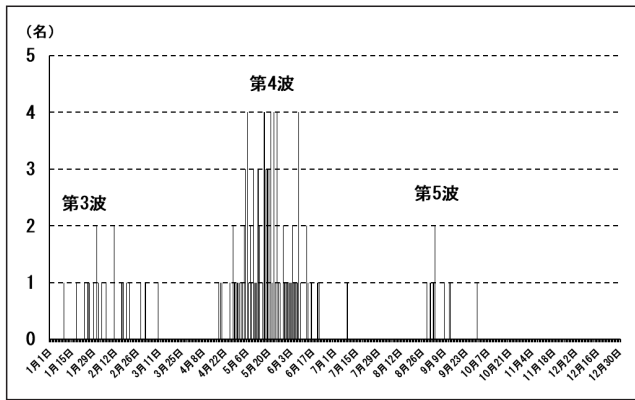


図9 死亡者発生状況(日単位, 岡山県)

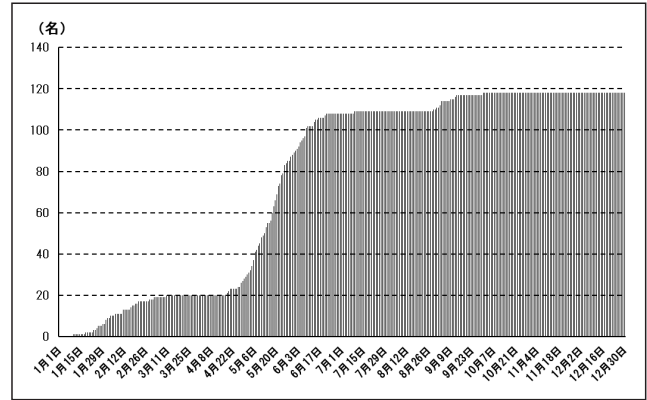


図10 累積死亡者数(岡山県)

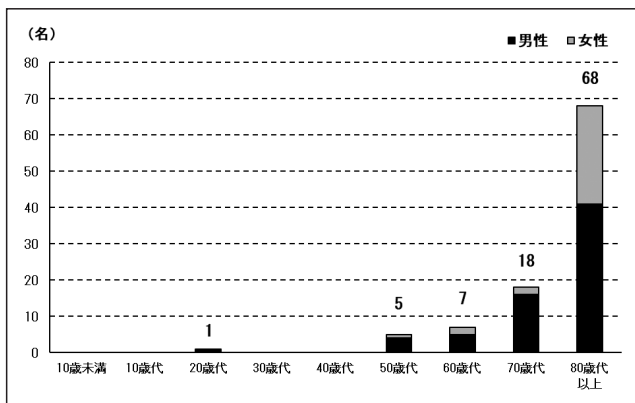


図11 年齢階級別死亡者数

(岡山県, 2021年中の死亡者としてHER-SYSに入力があつたもの)

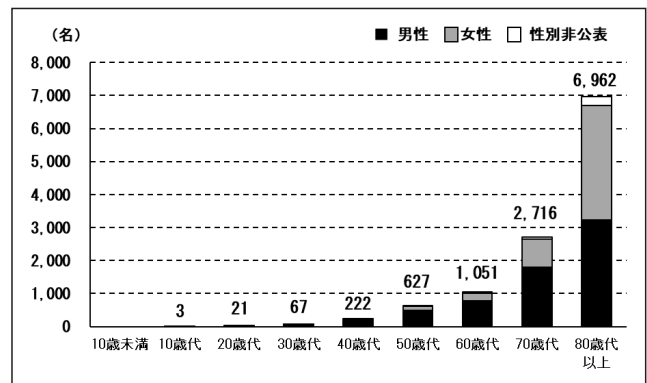


図12 年齢階級別死亡者数

(全国, 2021年1月4日~2022年1月3日)

されることとなった<sup>7)</sup>。日本では2020年12月に、英国からの帰国者の空港検疫における検査陽性者から初めて検出された<sup>8)</sup>。本県では、2021年2月上旬に発症した患者から初めてアルファ株が確認された<sup>4)</sup>。アルファ株は、第3波(2020年12月~2021年1月)で感染の主流であった2系統(B.1.1.214及びB.1.1.284)から置き換わった変異株であり<sup>9)</sup>、アルファ株が感染の主流となった時期(2021年4月~5月)は、第4波とされている。

更に、第5波(2021年7月~9月)では、このアルファ株からデルタ株に置き換わった。デルタ株は、2020年後半にインドで最初に報告され、インド全土に感染が急拡大した変異株であり<sup>10)</sup>、日本では、2021年3月下旬に検疫で初めて確認された<sup>11)</sup>が、以降拡大した。本県においても第5波ではデルタ株が主流であった。

#### 4 まとめ

新型コロナウイルス感染症については、岡山県では2020年3月から感染者が発生し、その後は流行の波ごとに首都圏等の大規模流行に追随する形で県内に感染が拡がり、流行の波が生じていた。2021年は、アルファ株や

デルタ株等の、従来株よりも感染力が強い変異株の出現により、これまでに経験したことがない急激かつ大規模な発生をみた。一方で、予防接種の普及や、変異株自体の重症化リスクの低下、更には治療薬の普及等もあり、重症者数や死亡者数は感染者数に比して低値を示した。2022年に入ってから、今までの変異株よりも更に感染力が強いとされているオミクロン株が流行の主流となっている。従来の感染予防策(屋内でのマスクの着用、換気、手洗いなど)の徹底とともに、広い年齢層への予防接種を推進することが重要である。

#### 文 献

- 1) 国立感染症研究所：IDWR 2021年第39号／注目すべき感染症(直近の新型コロナウイルス感染症の状況)、  
<https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/idwr/IDWR2021/idwr2021-39.pdf> (2022.10.17アクセス)
- 2) 国立感染症研究所：新型コロナウイルス SARS-CoV-2ゲノム情報による分子疫学調査(2021年1月14日現在)(IASR Vol.42 p61-64:2021年3月号),



- <https://www.niid.go.jp/niid/ja/2019-ncov/2488-idsc/iasr-news/10152-493p01.html> (2022.10.11 アクセス)
- 3) 厚生労働省：第50回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード（令和3年9月1日），資料3-2，pp40-47，  
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000826599.pdf> (2022.10.17 アクセス)
  - 4) 土本祐栄，岡本尚子，石井 学，船橋圭輔，長尾和彦ら：岡山県におけるSARS-CoV-2の次世代シーケンサーによる全ゲノム解析調査（2020-2022），岡山県環境保健センター年報，46，49-51，2022
  - 5) 北村雅美，木村英治，望月 靖：岡山県における新型コロナウイルス感染症の発生状況について（2020年），岡山県環境保健センター年報，45，95-98，2021
  - 6) 国立社会保障・人口問題研究所：新型コロナウイルス感染症について，  
<https://www.ipss.go.jp/projects/j/choju/covid19/index.asp> (2022.10.4 アクセス)
  - 7) 国立感染症研究所：感染性の増加が懸念されるSARS-CoV-2新規変異株について（第4報），  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/2019-ncov/10090-covid19-30.html> (2022.10.4 アクセス)
  - 8) 厚生労働省：新型コロナウイルス感染症（変異株）の患者等の発生について，  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_15791.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_15791.html) (2022.10.4 アクセス)
  - 9) 国立感染症研究所：国内における新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）N501Y変異株置き換わりに関する分析（IASR Vol.42 p174-175：2021年8月号），  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/2019-ncov/2502-idsc/iasr-in/10606-498c02.html> (2022.10.7 アクセス)
  - 10) 東京大学医科学研究所：SARS-CoV-2デルタ株（B.1.617.2系統）のウイルス学的・免疫学的特性の解明（プレスリリース），  
[https://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/about/press/page\\_00123.html](https://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/about/press/page_00123.html) (2022.10.7 アクセス)
  - 11) 国立感染症研究所：国内流行初期のSARS-CoV-2デルタ株国内探知症例の疫学的，分子疫学的特徴について（IASR Vol.42 p267-269：2021年11月号），  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/2019-ncov/2502-idsc/iasr-in/10796-501c03.html> (2022.10.7 アクセス)